



発足40周年
NPO法人認証25周年記念誌



HISTORY OF IKIKI NETWORK

認定NPO法人生き生きネットワーク
40TH ANNIVERSARY



CONTENTS

- 02 はじめに ～ ごあいさつ
- 04 支援者からのメッセージ
「ともに歩んで」
- 05 支援者からのメッセージ
「私たちが育ててくれた、これからも教えていただきたい方々」
- 08 支援者からのメッセージ
「今までも、これからも」
- 11 支援者からのメッセージ
「ともに歩んでくださっている外部評議員さん」
- 13 活き生きネットワークのあゆみ
 - はじまり・めぶく — 1983年～1999年 13
 - そだち・いどむ — 1999年～2015年 14
 - くふう・つなげる — 2016年～ 18
- 21 活き生きネットワークの活動紹介
 - 助け合い事業・制度外 21
 - 子育て支援事業 22
 - 高齢者支援事業 23
 - 障がい者支援事業 25
 - 委託事業 28
 - 交流活動 29
- 30 杉本彰子と共に歩んだ活き生きネットワーク
40年ものごたり ～ 明日のために今日したいこと
- 41 Relay ～ 仲間とともに
- 43 協賛広告
(ご協賛ありがとうございました)
- 54 編集後記

挑戦を続けたい

認定NPO法人活き生きネットワーク 代表理事

杉本彰子



発足40周年、NPO法人として25年も続けられたことはひとえに多くの方々のご支援の賜物だと思います。

活き生きネットワークの周りにはいつもすばらしい仲間がいて、助言してくださる方がいます。永きに亘る活動のなかで出会った全ての方々に感謝の気持ちで一杯です。理事・評議員さんをはじめ、ご利用者さんに教えていただく機会が多くありました。

「この人は不幸せだ」と世間の人勝手に思っている方々でも、明るく頼もしく、幸せに生活している姿を身近で見せていただきました。そんな方も障がいや病気などで立ち直れず、前に進めなかった日々もあったでしょう。ただ現実を受容し立ち直り、今笑って生活されています。

私たちはそんな方々に勇気や希望をいただき、助けるという立場ではなく、その方の個性を生かす活動を行っています。

スタッフもそれぞれの持ち味を生かして活動しています。活き生きネットワークのスタッフが主体的に働き、この仕事を誇りに思ってくれることが私の喜びです。

これからも少子高齢化が加速し、制度だけでは抱えきれない様々な課題が増えていくでしょう。またその担い手も減少しています。活き生きネットワークは世の中の様々な逆風にどう対処するか。変化していくことを恐れず、未来に挑戦していけるか。私たちはこれか

からも挑戦し続けたい。輝く皆さまを見続けるために。皆さまとともに。



これから

認定NPO法人活き生きネットワーク 専務理事
望月 洋子



40年間、ずっと変わらず心においているのは「困った時、伺います！」という理念です。困りごとは人それぞれ違います。家族の介護をしている方、身内が入院されている方、障がいをもっている方など様々です。困った時すぐにつけ、損得抜きで一番良い方法を一緒に考え、行動してくれたらとても心強いし、うれしいです。代表も私も子どもがいて、働いていく上で子どもが病気のとき安心して預かってくれる人がいたらありがたいのという思いでした。

お掃除屋さんになった時期もありましたが、原点に帰ろうと、もう一度助け合いに重点をおくことにしました。ちょうどその頃、日本でもNPO法が制定されました。私たちがやっていることは、まさにぴったりのNPOだと申請することになりました。目立つから一番に申請するのは避けましたが、なぜか認定を受けたのは一番でびっくりでした。今でも代表が知事から認定書をいただいている写真を見ると笑ってしまいます。女性が代表で社員の大半が女性ということで話題性があったのだと思います。

その後、介護保険制度、総合支援法(当時は支援費制度)もスタートしました。利用者さんに「こんなのがあらいいなあ」と言われると、その要望に応えようとした結果、今のよう多くの事業を抱えることになりました。それに伴い、働いてくださる方も増えていきました。

ずっと変わらず大切にしてきたことは「困った時!うかがいます」なのです。スタッフ一人一人がそのことを実践してくれているのを感じます。これからの人たちにもその心を繋げていってほしいと思います。

困っている目の前の人のために、「フレー!フレー!後継者!」



ともに歩んで四半世紀

国立大学法人静岡大学学長
認定NPO法人活き生きネットワーク 副代表理事
日詰 一幸



1999年4月28日。私はこの日のことを生涯忘れることはできません。まさにこの日に、「活き生きネットワーク」は静岡県内NPO法人の第一号として誕生しました。そして、その日に、私は杉本彰子さんと出会いました。それから早いもので、もう四半世紀になります。この間私は、彰子さんだけではなく、活き生きネットワークの前身である「静岡働く母の会」から行動を共にされている望月洋子さん、そして彰子さんの実兄である杉本昭夫さんをはじめ、実に多くの素晴らしい理事、評議員の皆さま、そしてスタッフの皆さまと出会いました。このような出会いは、私にとって生涯の宝物だと思っています。

一人一人に寄り添い、そして「困っている」という声をあげた人を決して一人にせず手を差し伸べる、それが「活き生きネットワーク」の理念だと思います。それはまさに彰子さんの生き方そのものを映したものだと言えます。そして、私は、身近にそのような理念を実践する組織があり、それに共感するスタッフの皆さまがいてくれることは、この世で最も尊いことだと感じています。

私ももう高齢者の部類に入ってしまった。この人生をどのように終えていくのかを考えざるを得なくなりました。その時に、最後の拠り所として「活き生きネットワーク」があることに安心と安らぎを見出すことができます。これからも地域の人々の幸せづくりのため、さらに発展されることを心から願っています。

活き生きネットワークとネットワーク

認定NPO法人活き生きネットワーク 副代表理事
岡村 曉美



活き生きとの出会いは、こども病院で成長期にある子どもたちが、障がいを持ちながら社会の中でどう成長し続けることができるのだろうかという枠の中でもやもやと悩みながら仕事をしていた時でした。福祉分野のことはまるで知りませんでした。理事会に出席すると目からうろこの情報が飛び交い病院の外はこんなに躍動的で、子どもたちの受け皿が広がってきているんだと実感し安堵したのを覚えています。「人工呼吸器をつけて学校に通いたい」「医療的ケアをする看護師が必要だ」という要望に、新しい支援制度を活用しその分野にとびっきりの知識と力のある人とマグネットのようにネットワークし対応が構築され困りごとが「できる」に変わりました。活き生きのスタッフはそうした活動の拡大を「できる喜び」として受けとめ、実践力を高めるよう見て、聴いて、学習・研修し一人一人が成長しながら事業として成り立たせてきました。利用者さんへの視線のやさしさや、困りごとを見つける目線、対応のスピーディーさは、代表譲りでしょう。今は16もの部門活動になっていますが、各々、単独活動ではなく幼児と高齢者さん、障がいのある子どもとが交わることで、利用者さんの日々の生活の力となったり、スタッフ間のネットワークが密になっていると感じます。

代表はアンテナを高くして、いつも笑顔で、どこにでも新しい情報を得ようと出かけていきます。最近は若い人と一緒に出かけ、理事会にも若い人が入り、違った視点と次世代のエネルギーが加わって、また力強くネットワークが広がっていくでしょう。頼もしい!!

独創的・冒険的な活動が生き生きの力

認定NPO法人活き生きネットワーク評議員／静岡県議会議員

天野 一



「活き生きネットワーク」発足40周年、NPO認証25周年、誠におめでとうございます。杉本彰子代表は「助けてほしいという人の力になるのが私の役目」と常々おっしゃっていますが、「言うは易く行なうは難し」の言葉通り、強い覚悟と信念が無ければかくも長きにわたりその言質を実践することは困難です。改めて敬意と賛辞をお贈りします。

私が政治を志すきっかけは、故・宮城まり子さんとの出会いでした。宮城さんが理事長を務めていた「ねむの木学園」を訪問した時に「障がい者や社会的弱者の人権問題は政治を変えなければ解決に至らない」と強く感じたからです。アプローチの方法は違っていても「社会的弱者の手助けをしたい」という根っ子の考えは杉本代表と私も同じだと思っています。いわば同志とも言えます。

世界を混乱に陥れたコロナ禍は、感染リスク低減や予防策の恩恵を受ける人がいる一方で、低所得者、女性、高齢者、障がいや難病をお持ちの方々に打撃をもたらし、格差を顕在化させました。国や地方公共団体が構築する行政のセイフティーネットワークは万全ではありません。残念ながら、どうしてもそのネットからこぼれてしまう人がいます。「活き生きネットワーク」は杉本代表の下、行政や企業の活動理念では取組みにくいことであっても、市民のニーズや必要性などを丁寧に汲み取って独創的・冒険的な活動を続けておられます。そのような活動は今後ますます必要性が増してくるものだと思います。

次の10年、20年を見据えて「活き生きネットワーク」が「弱者への優しい眼差し」で活動を続けられることを期待しております。

感染症との闘い

認定NPO法人活き生きネットワーク産業医・顧問
認定NPO法人活き生きネットワーク理事

野島 恵子



2020年初めから流行した新型コロナウイルス感染症、まだ終息はしていませんが、重症度の低下とワクチンや治療薬の普及で、恐怖感が軽減し日常生活が戻ってきました。感染症は病気だけでなく社会の問題と言われますが、それをまざまざと実感したこの数年でした。

8世紀奈良時代の天然痘流行は藤原氏四兄弟を死亡させ、東大寺大仏建立のきっかけになりました。14世紀ヨーロッパで流行した黒死病(ペスト)は約2億人を死亡させ、多くの都市国家を滅亡させました。15世紀末コロンブスの新大陸発見とそれに続くスペイン人の上陸で、中南米の先住民は天然痘や麻疹で多くの命を落としました。5億人が感染したと言われる100年前のスペイン風邪は、当時勃発していた第一次世界大戦の死者を上回る4000~5000万人の命を奪ったと言われています。

今回の新型コロナウイルス感染症では、米ジョンズ・ホプキンス大学が世界の感染者数を集計していましたが、2023年3月10日で終了しています。その時点の世界の感染者は6億8千万人、死者は690万人でした。日本では3400万人の感染者、7万3千人の死者でした。何と大きな犠牲を払ったことか。

「活き生き」内でもスタッフ、利用者さんの感染が続き、仕事のやり繰りや二次発症の予防などに苦労したと思います。クラスターを防ぐには、いつ誰が発症し、接触者は誰かを時系列で検討することが大切でした。その結果により事業を継続するのか、一時的に閉鎖するのかの判断を日々必要としました。産業医という立場からいろいろ相談を受けましたが、月日が経つにつれスタッフが的確な判断をしていくのを実感しました。辛かったけれど、この経験は大きな財産です。皆さんに言いたい。『よく頑張った!よく耐えた!』と。

静岡働く母の会を立ち上げてから40周年に向けて

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／税理士法人しずおか所長

戸塚 光博



私と杉本代表との出会いは、平成9年9月の静岡県協賛の「女性起業家セミナー」でした。その後、平成10年5月から有限会社静岡ウーマンが戸塚光博税理士事務所の関与先となり、NPO法人活き生きネットワークに繋がって現在に至るわけです。

私は、基本的に企業は利益を追求することを目的に経済活動を行ってその支援を業としています。しかし、杉本代表の考えの根本には会社経営でも「困った人を助けるの心・奉仕の精神」があり「ボランティアの精神」となって助け合いの理念がまた行動力の源となっています。

杉本代表の考え方を最も良く表している文章をご紹介します。女性起業家セミナーでの自己紹介の文面を抜粋してみます。(本人の許可を取っていません。杉本代表すいません。)この文章は杉本代表が法人の企画運営を考える或いは起業の原点だと思っております。表題は「ボランティアの精神が原点」です。

「私の起業は子育てと生活のために働かざるを得ない状況でスタートしましたが、気持ちの指針となっていたのは奉仕の精神です。…(省略)…。28歳のとき、夫を病気で亡くし、幼い子供を抱えて途方に暮れていたとき、周囲の人々に助けられたことも私の財産です。仕事も会社経営も、人を助け、人に助けられて出来るものだと実感しています」

この様に奉仕の精神と自分が困ったときに助けられた。だから他の人も助ける。これが杉本代表の心の中では当然な行為として表に現れ、行動が伴って実践していく。利益を追求する側の人とは対極をなす人です。これは愛そのものです。

最後に活き生きネットワークも順調に運営が行われてきましたが、理念の中心にある杉本代表の「ボランティア精神が原点」である奉仕の心を、杉本代表の後を継ぐ人も同じ理念を持つことが重要と考えられます。この理念が無くなると、他の企業と同列であり、先行の不安要素となってきます。ぜひ後継者たちは「ボランティア精神が原点」を忘れずに杉本代表からバトンタッチを受けてください。

挑戦し続ける同志

認定NPO法人活き生きネットワーク監事／株式会社小出宗昭事務所代表

小出 宗昭



代表の杉本彰子さんとの出会いは、私が静岡銀行から出向し県の創業支援プロジェクトだったSOHOしずおかの活動を始めた2001年、行政が主催するイベントでお会いしたのが最初だったと記憶しています。その第一印象は、23年経った今も変わりませんが、実にエネルギーでパワフルなものだったと強く思い出に残っています。

この間で、私自身は、数えきれないほどの起業家や中小企業のチャレンジをお手伝いさせていただきましたが、その経験をふまえ改めて考えてみても、活き生きネットワークの取り組みはこの上なく意義深いものです。高い志を持ち、情熱を燃やし続けながら、40年にわたり活動し続けていることも驚嘆に値することです。

私のチャレンジは、公的産業支援の世界に大きな変革をもたらそうとするもので、常に手探りで可能性を追求し続けて今日に至っていますが、活動する世界は違えども、限界を設けず地域のあらゆる「困った」に対して「出来ること」を追い求めて挑戦し続けている活き生きネットワークとは同志だと感じていて、皆さんから大きな刺激を受けながら走り続けられることを幸せに思っています。私は、杉本代表同様、体調面においては常にドクターと相談しながらの状況ですが、そんなところからも、似た者同士、これからも励ましあいながら共にチャレンジを続けたいです。

モチノキの想い

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／樹木医
塚本 こなみ



活き生きネットワークは杉本代表の「困っている方、苦しい方を少しでも楽にして差し上げたい」との信念で活動が始まったと聞いています。私とは30数年のお付き合いですが、その間その思いは今まで揺るがず、今もさらに強くなっていますね。その姿から私も勇気をたくさんいただき背中を押していただいています。

喜楽庭の庭作りの時、ご相談をいただきクロガネモチの木を残しました。冬には鳥たちがその実を食べにきたことでしょうか。また、元気なお子さまたちの笑顔があふれ、笑い声が聞こえたでしょう。時代と共に庭の活用法も変化したことから、多くの利用者さんから愛された木を取り除くことになり、残念ながら今はその姿はありません。でも皆さまの心にはきっと残っていることでしょうか。

いつも利用されている方々に心を寄せている杉本代表、もっともっと皆さまの笑顔を見たいと思ってるスタッフの皆さま、これからも活き生きネットワークの信念を引き継ぎ、困っている人たちの一助の役割を果たしてください。今後の活動にご期待を申し上げ、応援しています。

そんな時だからこそ

認定NPO法人活き生きネットワーク監事／NPO法人静岡県ボランティア協会理事長
小野田 全宏



もう46年も前にボランティア協会を立ち上げた当時、活き生きネットワークの事業に「こんな活動が求められていたんだ」と強烈な刺激を受けました。

代表の杉本彰子さんは、当時と今とでは、何も変わらないし、変わっていません。核家族化が進み、隣の人のことも分からないことが普通になってしまった今、活き生きネットワークの「困った時！うかがいます」の言葉は、ますます私たちに大切なことを教えてくださっています。

「遠くの親戚より近くの他人」という言葉がかつてよく耳にしました。しかし、近くの他人すら見えないようになりつつあります。そんな時だからこそ、活き生きネットワークの事業から、私は学んでいかなければと思っています。活き生きネットワークの皆さんから大切なことを教えて頂き、心から「感謝」しています。

人は何のために生きているのか、生きていくのか

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／NPO法人グラウンドワーク三島専務理事
渡辺 豊博



皆さん、突然「貴方は何のために生きていますか」と聞かれたら何とお答えになりますか。特に、福祉・介護・医療などの仕事に従事している人にとっては、人の生き様の「ゴール・末路」を見守る仕事であり、強い精神力と目的意識、信念・覚悟がなければ、仕事を続けられない中で、迷いもあり、自分の今の気持ちに正直な答えを見出すことは、なかなか難しいと思います。

私は、人が生きていくことは、深い迷いと不安が複雑に絡み合う「迷走飛行・試行錯誤」の「旅」だと考えています。人は今の自分の生き方や仕事に対して、常に不安と迷いの気持ちを内在し、心落ち着かず、自分に相応しい生き方があるはずだと心が定まらないものです。しかしよく考えると、今があるから明日があります。経験や専門的知識を蓄積することは、次の人生に飛躍するためのキャリアであり、強力なエンジンになります。現場での汗や努力、叱咤は刺激・栄養剤です。夢は自分で創るものです。失敗は、次なる人生への安全装置です。

「人は人のために生きてこそ人なり」です。弱者への善意の行為の蓄積は、心を豊かに育て、他人の心も和ませます。活き生きネットワークの持続力と挑戦力に心から期待しています。

「輝きながら生きる」を支援する皆様へ

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／公益社団法人日本介護福祉士会会長
及川 ゆりこ



設立から40年、これまでの活動や取り組みに心から敬意を表します。これまでの様々な事業への積極的な関わりと、関係者の皆さまの協力体制には、同じ介護福祉の仕事をするものとして、仲間になりたい、仲間として一緒に仕事がしたいと感じさせるものがあります。

サービスをご利用される方々の笑顔、その傍にいらっしゃる職員の方々の笑顔がいつも見られるからでしょうか。

その中でも一番に大きな声を出して笑っていらっしゃる杉本代表の持つ魅力でしょうか。

人はそれぞれに様々な課題を持ち、生きています。そのことだけに視点が行くと、どんな人でも幸福感は少なくなります。しかし、喜びや楽しさを持ち続けていれば、大きな課題を持っていても幸せな日々と、大きな幸福感を感じて過ごせるのではないのでしょうか。

「活き生き」と生活することを真ん中に置いて活動されている、職員の皆さまと関係者の皆さまの今後のご発展とご多幸を祈念しております。

次世代に引き継ぐ大仕事

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／静岡県医療的ケア児等支援センターアドバイザー
小林 不二也



私が活き生きネットワークと関わり始めてかれこれ10年近くなるでしょうか。多分活き生きが重症心身障害児(者)の支援を始めるころだと思います。杉本代表、望月専務理事、杉本昭夫さん、そして当時つばさ静岡で清掃の仕事をしていたスタッフの皆さんとの出会いが始まりでした。どの方からも、利用者さんへの愛情と仕事に対する誇りと責任感を感じました。

当時私も国立療養所を退職して、多分県下では初めての在宅重症心身障害児(者)の通所支援を立ち上げ、拡充させていきたいと考えていたころで、様々な運営に関する悩みや在宅重症心身障害児(者)の支援への行き詰まりを感じていたころだったと思います。皆さんの活動に触れることで改めて利用者さんのニーズへの真摯な向き合い方と意気込みに触発されたことを思い出します。

障害者福祉の歴史を学ぶと、「制度」が先にあったのではなく、闘いといっても過言ではない「活動」が先にあったのだと分かりました。ご本人の生きざまに刺激され、親や家族、ご本人に寄り添う人々やご本人から闘う力をもらい、前進してきたのだと学びました。自分もそのはしくれだと感じて現在もこの仕事に就いていますが、活き生きネットワークはこの「活動」そのものだと感じさせられます。利用者さんのニーズや思いはとても細かく幅広くあり、それを丁寧に拾っていくと活き生きネットワークのような細かく幅広い活動になっていくのだと感じます。この姿勢には頭が下がります。

創設時の思いが次世代につながり受け継がれていくことがこれからの最大の課題ではないかと思いますが、これまでの利用者さんとの向き合い方や支援に対する真摯な姿勢が変わらない限り、活き生きネットワークは発展を続けていくことと思います。欠席ばかりのダメ役員で申し訳ありませんが、これからも活き生きネットワークの活躍を見守らせていただきます。

温かい光を届け続けて

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／一般社団法人会議ファシリテーター普及協会副代表理事
小野寺 郷子



活き生きネットワークの活動は目の前の見える人や事から動き出します。それは困っている人などの声に耳を傾け、一緒に行動するというとてもシンプルなものです。しかし、多くの人々が個別に自分だけの世界で過ごすことが可能な時代においては、ありそうでないこと、だと思うのです。

『共生』も『協働』も『包括』も世界が目指す社会としてニュースなどで見聞きしない日はありません。しかし、一人ひとりがばらばらで、お互いを思いやり繋がっていることを実感できる機会は多くありませんから、それらの言葉はなんとも虚しく響きます。

私はファシリテーターという集団による創造的活動を導く話し合いの進行役を育てる仕事をしています。現場で目指すのは、メンバーのそれぞれの特性を最大限活かして目的を達成するチームを作ること。そんな私が目指している話し合いの場は活き生きネットワークが目指している社会と重なります。そして活き生きネットワークには設立当初からブレない志と行動で確実に『共生』も『協働』も『包括』も実践しているのです。そして、その志と行動はとてつもなく大きな愛から生まれていて、その場にいると、誰もが巻き込まれてしまいます。私も巻き込まれました。そんなネットワーク作りの達人、杉本彰子代表、望月洋子専務を筆頭に輝く笑顔の素敵なスタッフが繋がって、今まさに次の世代、若い世代へ受け継がれつつ形成されています。そんな活き生きネットワークの存在は、多様な人々が幸福な人生を全うするために必要な貴重な光になっています。その光はとっても温かく、優しい。

今、世界が目指すSDGsの17のゴールは、1983年から活き生きネットワークが掲げてきた理念にやっと追いついてきました。世の中は変わってきています。でも、問題、苦難は人々を試すようにどんどん新しく生まれてきます。その中で活き生きネットワークは世界の宝物です。これからも末永く続いてほしい、世界のために。

『困った時!うかがいます』のこれまでに感謝とこれからの期待

特定非営利活動法人静岡市障害者協会会長／静岡市重症心身障害児(者)を守る会
牧野 善浴



杉本彰子さんから突然「今度記念誌を出すので原稿書いて!」と言われ、即、引受けました。静岡市内にいる、私が断れない3人の女性の一人だからです(前にもシンポジウムの出演要請を受けた!)。ただ今回、私の役割は辛口のメッセージだと信じ反撃します。

出会いは、中央養護(現在の中央特別支援学校)に看護師を派遣する事業に苦勞されていた頃、または同校体育館で運動会を開催した頃。「いやに元気で、想いを熱く語り、しっかり実現する人」が当時の印象。私の長女は重症心身障害があり、中央養護に通っておりお世話になりました。感謝しています。

ご本人への賞賛は他の方に譲るとして、私は彼女の横と下で苦勞している方々に感謝をお伝えしたいと思います。

あえて名前を挙げれば、苦樂を共にしたと推測される望月洋子さん。喜楽庭を取材したときも、医療的ケア児支援の事業を始めたときも、少しブレーキを踏みながら一緒に歩む姿が印象的。一見無茶な新企画に議論の末、結局GOを出す理事の皆さん。最後に、無理難題の事業を具体化するスタッフの皆さんです。代表がやると言ったら「やるかやらないかではなく、どうやるかだ」でしょう。外からはそんな風に見えましたが、違います?

後継者の準備も着々と進んでいると想像しますが、彼女は余人をもって代えがたし、かも。しかし、想いと理念を共有する若い人たちが時代のニーズに合わせて合わせることができれば、あと50年は大丈夫でしょう!?

「困った時!うかがいます」の思いを貫く活き生きネットワークの今後の進撃に期待します。

活き生きネットワーク 40年の有限と異次元の旅

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／社会福祉法人桂 カリタス21居宅介護支援事業所管理者
飯塚 哲男



25年前、偶然見かけた静岡ウーマンのパンフレットに惹かれ、アポイントメントも取らず、飛び込みで伺った際の、代表をはじめスタッフの方々の気さくな雰囲気、あたたかい言葉と表情、居心地の良さを今でも昨日のこのように覚えています。

活き生きネットワークは、「何かに困っている人」に寄り添いひとりひとりの意思に向き合いながらお話を聴き、「仕方がない」とサポートを諦めない情熱と献身的な姿勢を持っていると思います。

「困った時!うかがいます」のプロジェクトとイニシアチブは、老若男女問わず多くの人たちの拠り所として安心できる「ネットワーク家族論の居場所」となっています。

認定NPOとして組織として、世の中の変化が目まぐるしく変化する中で地域社会に対するコミットメントを続けるにあたり、新たな挑戦と革新が待ち受けているかもしれませんが、地域共に私たちはそれらを乗り越え更なる成長を遂げることでしょう。

新しい地域社会を構築し、当事者、当事者家族、地域の困りごとに真摯に向き合い、一緒に支援させていただきたいと思います。皆様の絶え間ない支援と愛情に感謝し、この記念誌が皆様の手に届くことを心からお喜び申し上げます。

これまでの歩みを振り返り、未来への希望を新たにできる機会となれば幸いです。これからも、共に歩んで参りましょう。

地域の未来予想図を描く

認定NPO法人活き生きネットワーク評議員／NPO法人クローバー(ハピネスグループ)代表
影山 陽



私は10年前に杉本彰子さんと出会い、活き生きネットワークを見学し、障害児通所施設を立ち上げました。現在は、重心通所施設「ハピネス西千代田・城北」、計画相談、訪問看護を運営しております。

近年、障害福祉業界は制度が細分化され、訪問や通所問わず事業所数が増え、かつての措置の時代から、「支援も場所も選択できる時代」となりました。

一方、共生という言葉も聞かれるようになり「インクルーシブ」な地域社会を作ることが提唱されているなかで、行政、教育、医療、福祉、多くが縦割りで進んでいないのが実情です。また福祉は、合理的主義のビジネスとして成立する時代にもなりつつあります。

活き生きネットワークは昨今の地域事情の中で、40年前から一步一步、共生社会を作ってきました。子どもからご高齢の方まで障がいのあるないに関わらず、制度を超え、みんなで助け合い、みんなで作っています。1983年発足時の「困った時!うかがいます」の原点を軸に、人と人を大切にしています。そこには、支援者も利用者も家族も垣根はありません。

「助け合い、人や仲間へ感謝。ほっとけない!みんなで作ろう!」

この言葉は、私が杉本さんと出会って、どれほど聞かされたかわからないほどの言葉です。

今後、さらに変革する社会環境の中で、10年また10年と明るい地域の未来予想図を活き生きネットワークと関わる皆さんと共に描き歩んでいきたいと思っております。人と人が繋がり、人と人が思い合う、笑顔の絶えない「安東の活き生きさん」であり続けてほしいと願っております。

外部評議員さん

ずっと変わらず、高齢者や子育て、障がいのある方など、女性が抱えてきた苦勞・悩みなどに手を差し伸べてこられてきましたね。みなさんのパワーとやさしさに頭が下がります。
これからも、活き生きネットワークらしい活動を発展されていかれることと思いますが、くれぐれもご自身を大切に過ごしてくださいませ!!

アグリロード美和代表
海野フミ子



スタッフの皆さまの明るさ、パワーあふれる行動力、誠実さにいつも感動しています。これからも、皆さまの活動と笑顔が心に刻まれていくことでしょう。

静岡市役所青少年育成課
子ども若者相談センター
谷脇葉子



様々な活動を映像で撮らせていただきました。どこを切り撮っても、そこにはいつも笑顔がありました。みんな笑顔でこれからも!

十二映像代表
萩島征也



生活で困ったことがある人に「話を聴く」「手を差し伸べる」活動機関であり続けてください。共にこの地域で生きるために。

相談室ハタケヤマ
島山直史



喜楽庭でお手伝いをしたとき、活き生きネットワークの現場力に圧倒されました。これから50年、60年と続く活動にさせていただき、いつか私が困る時にも頼らせてください!

株式会社小出宗昭事務所
津田万起子



理事会等で部門別活動報告をお聞きし、毎回感動しています。それはスタッフさん一人ひとりが、利用者の立場や思いにそって支援されている心が伝わってくるからと考えます。これからも杉本代表を軸に、スタッフの方々が持つ個性を発揮して、目の前の困った人、大変なところを支えるしくみの一層の充実に期待しています。

元静岡県NPO推進室長
萩原孝子



顧問社会保険労務士となり10年。やりがいある仕事に幸せを感じながら、多忙な日々を過ごしています。活き生きの皆さんの明るさや優しさに、いつもパワーをいただいています。これからも、「活き生きネットワークらしさ」を大切に共に歩んでまいりたいと思います。

社会保険労務士戸田純子事務所代表
戸田純子



人との出会いを大切に、個々を認め支え合い、つながれば皆が笑顔になる活き生きネットワークは地域の宝です。これからも益々のご活躍を!!

社会福祉法人静岡市社会福祉協議会
古屋貴彦



活き生きの皆さんのパワフルな推進力。この人たちなら不可能を可能にするかも...と思わせる常時前傾姿勢、すごいです。このイズム、これからも継承して欲しいですね。

澤本事務所(司法書士・行政書士)
澤本裕貴



発足40年の節目にくすくす2号館の落成、新しい夜明けです。培った「想い、情熱、行動力」を、新しい世代に引き継ぎ、活動が発展されますように。

NPO法人WAC清水さわやかサービス
長倉利仁





この二人から始まりました

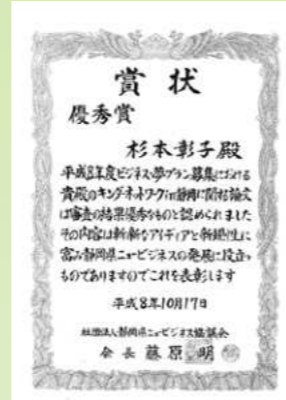


* 有限会社「静岡ウーマン」設立
(1999年NPO法人化に伴い休眠・合併)

有限会社静岡ウーマン
パンフレット



有限会社静岡ウーマンのメンバー



1996 キンダーネットワークin静岡で
ビジネス夢プランコンテスト優秀賞受賞



* 「NPO法人生き生きネットワーク」認証



1999.11 認証式



NPO法人設立認証通知

* 静岡市から「在宅介護支援センター」運営を受託
* 託児ルーム「エンジェルハウス」オープン

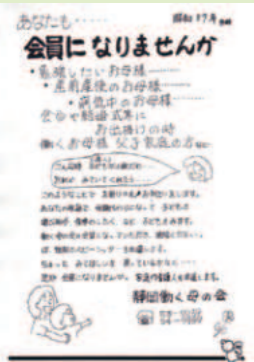


エンジェルハウスの様子



2002 在宅介護支援センターのスタッフ

1983
昭和58年



静岡働く母の会 チラシ

1986
昭和61年

* 「静岡ウーマン」設立



静岡ウーマン チラシ

1994
平成6年



1997 設立当時のヘルパーさん



1997.2 恩師末次先生と



* 「有限会社静岡ウーマン ホームネットワーク」設立
家庭内の困りごとを支え合うヘルパー派遣事業として
有志11人で立ち上げました。
(この法人がNPO法人に移行)

1997
平成9年

1999
平成11年



生き生きネットワーク パンフレット



認定時のメンバー

2000
平成12年

介護保険制度が始まる



設立1周年交流会



ヘルパーによる訪問介護

* 居宅介護支援、訪問介護支援事業を開始
* 県下養護学校7校へ
医療的ケア看護師派遣モデル事業開始
(静岡県教育委員会委託)



県下養護学校へ医療的ケア看護師を派遣

2002
平成14年

* 通所介護「デイサービス あんどう」オープン



デイサービスあんどう送迎



デイサービスあんどうの様子

- * 居宅支援、知的障がい者デイサービス 児童デイサービス、移動支援を開始
- * 複合デイサービス「喜楽庭」オープン
- * 県NPO活動センターの管理運営を受託(～2009)



喜楽庭パンフレット



喜楽庭 散歩の様子



居宅介護の様子

障害者支援費制度が始まる



2005 在宅テレワーク事業

- * 光ブロードバンド 在宅テレワーク事業開始 (NTT西日本、～2009)

- * 子育て緊急サポート ネットワーク事業開始 (厚生労働省、～2009)

- * つばさ静岡 定期清掃受託 (社会福祉法人 小羊学園、～2009)



つばさ静岡 定期清掃の様子



2005 厚生労働省委託 子育て緊急サポートパンフレット

- * 「再チャレンジ支援功労者賞」受賞 (内閣総理大臣賞)

- * たなばたコンサート
- * NPO法人しずおかM・S・Oと合併

- * 国際アビリンピック静岡大会 (在宅テレワーク事業展示)



2007「再チャレンジ支援功労者賞」受賞



2007 国際アビリンピック静岡大会

- * 静岡市委託 静岡市緊急サポートセンター開始
- * 静岡市番町市民活動センター開始(相談・研修事業)
- * 安全衛生委員会発足
- * 静岡県委託 ファミリーサポート・センター強化事業
- * 静岡県委託 子育て支援ネットワークモデル事業
- * 静岡県委託 介護分野就業セミナー事業



緊急サポートの様子



静岡市緊急サポートセンターポスター



2009 安全衛生委員会発足



2009 福祉の魅力発見ツアー

自立支援法「生活介護」が始まる

2003 平成15年



2003 県NPO活動センターの様子

2004 平成16年



2004 事務局スタッフ



発足20周年・NPO設立5周年記念誌

- * 発足20周年・NPO設立5周年を迎える
- * 記念誌を発刊

2005 平成17年

障害者自立支援法が始まる



児童デイサービスの様子

- * 自立訓練(生活訓練)、児童デイサービス・居宅介護・移動介護
- * 介護保険制度改正で介護予防事業を開始
- * 内閣府男女共同参画「女性のチャレンジ賞」受賞 (男女共同参画大臣賞)



内閣府男女共同参画「女性のチャレンジ賞」受賞

2006 平成18年

2007 平成19年



2007.7 たなばたコンサート

2008 平成20年



2008.7 10周年記念コンサート

- * 10周年記念「交流会&パネルディスカッション」
- * 10周年記念「夏祭りバザー&コンサート」
- * 静岡県における 子育て支援ネットワークフォーラム開催



2008.9 赤い羽根寄贈 福祉車両



2008.10 子育て支援ネットワークフォーラム

2009 平成21年



子育て支援パンフレット

活き生きネットワークパンフレット

- * ケアラーを支えるための実態調査事業 (ケアラー連盟共催)
- * 団塊世代の地域デビュー応援プロジェクト事業 (NPO市民協)
- * 社会的事業者ワークショップ型訓練開催 (厚生労働省緊急人材育成事業)
- * 訪問介護員2級研修事業開始
- * 静岡県委託 子育て支援フォーラム開催
- * 静岡県委託 介護分野就業セミナー事業



2010 訪問介護員2級研修の様子

2010 平成22年

- * 視覚障がい者の同行援護開始
- * 児童デイサービスが放課後等デイサービスと児童発達支援の2事業所となる
- * 求職者支援訓練実践コース開催(厚労省認定職業訓練)
- * 静岡県委託 介護分野就業セミナー事業



清水病児・病後児保育室「虹いろ」



2013 ふじさんっこ応援フェスタ

- * 総合支援法 児童発達支援 重症心身障がい児事業開始
- * 静岡市委託清水病児・病後児保育室「虹いろ」事業開始(10月～)
- * ふじさんっこ応援フェスタ出演
- * 静岡県委託 介護分野就業セミナー事業



2011 求職者支援訓練実践コース



同行援護の様子



児童発達支援 重症心身障がい児事業の様子

- * 託児ルーム「エンジェルハウス」を「喜楽庭」に移設
- * 児童発達支援・放課後等デイ・生活介護(重症心身障がい児対応)「にこにこ」を開所
- * 福祉介護分野就業支援事業「福祉職の魅力発見ツアー」(静岡県経済産業部委託)



重度の肢体不自由をお持ちの方等を療育支援、医療的ケアで受け入れています



エンジェルハウスの子ども達、高齢者さん・障がい児さん達と家族的に過ごしています。



介護職の魅力を発見していただきました



主治医の指示のもと、自宅で安心して過ごせるよう看護師がお伺いします。



未就学の知的障がいを持ったお子さんが通所し活動しています。

- * 訪問看護ステーション「あんどう」開設
- * 児童発達支援(知的障がい児対応)「のびっこハウス」を開所

2011
平成23年

2012
平成24年

2013
平成25年

2014
平成26年

2015
平成27年

2016
平成28年

2017
平成29年

2018
平成30年

介護保険制度改正

- * 静岡県委託 介護分野就業セミナー事業
- * 求職者支援訓練実践コース2回開催(厚労省認定職業訓練)
- * 通所介護事業所「喜楽庭」提供時間変更
- * 放課後等デイサービス・児童発達支援事業所をハセコーポ1Fに移動
- * しずおか介護フェア2012「いきいき&まりまり昔話メドレーin静岡」開催



2012 いきいき&まりまり昔話メドレーin静岡



放課後等デイサービス 防災訓練の様子



2014.2 記念イベント&コンサート



- * 発足30周年・NPO設立15周年記念感謝祭「交流フェスティバル&コンサート」開催
- * 放課後等デイ・児童発達支援の統合・移設



知的障がい児対応、重症心身障がい対応事業を統合移設しました

- * 認定NPO法人に認定
- * 「認定NPO法人認定記念シンポジウム&感謝祭」開催
- * みんなの居場所&子ども食堂「もぐもぐキッチン」開設



NPO法人として、定められた組織運営と社会的信頼等の認定基準に適合し認定NPO法人として認定されました。



認定NPO法人認定記念シンポジウム&感謝祭 想いを未来へ! @Resutant Temboo



- * 居宅訪問型児童発達支援(重症心身障がい児対応)「のびっこハウス」事業開始
- * 設立35周年・NPO法人認証20周年イベント開催



もぐもぐキッチンの様子



2019.1 記念講演&コンサート

- * 静岡県委託介護分野就業促進事業
「介護職の魅力発見ツアー」(2017年～2019年)
- * 静岡市消防団協力事業所活動開始(～2023年)



介護分野の仕事や魅力について理解を深め、介護分野職に就いていただく講座・施設見学の開催



アクティブシニア
介護職の魅力発見講座

- * 静岡県委託「アクティブシニア 介護職の魅力発見講座」開催
- * 静岡市委託「難病患者介護家族リフレッシュ事業」開始
- * いきいき介護職員初任者研修開始



職員が第6分団消防団員として入団し、活動



いきいき介護職員
初任者研修の様子



2月17日 新型コロナウイルス感染症患者確認 全国学校臨時一斉休校 WHOパンデミック認定

2019
令和元年

2020
令和2年

2021
令和3年

2022
令和4年

2023
令和5年

新型コロナ 緊急事態宣言発出(～2022年) (外出自粛・イベント自粛・三密回避等)

- * 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策
静岡県緊急事態宣言を受けての対策の推進
コロナ関連包括支援交付金の受取活用
- * 「るるん」「にこにこ」で生活介護事業を開始
- * SDGs宣言事業所に参加(静岡市事業所宣言に登録)



新型コロナウイルス感染症拡大防止対策



「るるん」「にこにこ」での活動の様子



SDGs宣言書

* くすくす隣地の土地取得



コロナ感染対策をしてフリーマーケットの開催



くすくす隣地の土地取得



もくもくキッチンもテントテラスでの提供からお弁当販売へ移行



ROAD TO THE FUTURE



くすくす2号館 地鎮祭



くすくす2号館 上棟式
(オクス材活用)

新型コロナ5類感染症移行

- * くすくす2号館開設(新土地に新建物落成)
1階：にこにこ / 2階：多目的室
- * 「にこにこ」をくすくす2号館に移設
- * 発足40周年・NPO認証25周年記念行事開催
(記念式典・記念誌・DVD)



にこにこ移設開設(1F)



多目的室(2F)



記念誌

助け合い事業 ・ 制度外

家事支援・介護全般訪問

活き生きネットワークの前身である“働く母の会”から変わらず、「困った時!うかがいます」を理念に、家事のお手伝いや、病院の付き添い、制度外の支援など、さまざまな困りごとにヘルパーが伺います。



且力合わせて、ドリーム会員さんと
ワーカー会員さんなど、活き生きの大きな車輪、
つながりができる事を嬉しく思います!!
これからも人と人の信頼と、
思いやりを大切にコーディネートして
いきます!! 😊

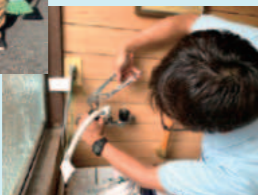


ご家族の声 小嶋 宏子さん

この度は「活き生き」さんに助けられ、なんとか乗り越えられました。当初、全く身動きが出来ず「活き生き」さんの存在がなかったら、どうなっていたかと思うと恐ろしささえ感じます。素晴らしい活動をなさっていらっしゃることにあらためて敬意の念を覚えます。ヘルパーさんとして来てくださったお三人は休む間もなく仕事を見つけ、ギリギリまで精一杯頑張ってくださいました。その姿に脱帽です。今後ともよろしく願い申し上げます。皆さまのご健康をお祈りし、心からの感謝を申し上げます。

いきいきリフォーム・清掃部

前身の静岡ウーマンガリリフォームを中心に「困った時!うかがいます」というキャッチフレーズで、家庭内の困りごとに対応するためできた部門です。



福祉有償運送

一人では公共交通機関を利用しにくい
高齢者(介護認定を受けている方)・
障がい児・者(手帳保有者)を対象に、
ドア・ツー・ドアの運送をおこなっています。
(会員登録制)



子育て支援事業

託児ルーム「エンジェルハウス」

0歳～12歳対応
喜楽庭

0歳から小学生までのお子様をお預かりする託児ルームです。小さな託児ルームですが、高齢者さんや障がい者さんなどいろいろな方と関わりがあり、家庭的に過ごしています。



「また来たい」「また預けたい」と
思って頂けるように、子ども達と
一緒に楽しみ、みんなが笑顔に
なれるよう心掛けていきます。

ご家族の声 澤部 香織さん

とうとう卒園、あっという間でしたが、本当にありがとうございました!1人目の子が1才の時からお世話になり、ついに4人目も卒園...感慨深くてホロリとします。長期間お世話になっている間、いつ伺っても温かい笑顔で接して下さり、子どもたち4人共エンジェルさんが大好きです。子どもたちの長い人生の中で初めての集団生活がエンジェルさんで過ごした温かい日々であり、その記憶が本人は忘れてしまったとしても、心の奥に根付いて、これから彼らが社会の中で生きていく土台となっていくと思います。

上の子たちは幼稚園、小学校と大きくなっていく中で、様々な問題にぶつかっていますが、それぞれ頑張っています。それも小さい頃エンジェルさんで学んだことがあってのことで、私も先生たちから多くのことを学ばせていただき、子どもたちへの接し方に生かしています。重要な幼少期をここで過ごせて本当によかったと思います。ありがとうございました。これからも皆さまのご活躍を応援しています。



ベビーシッター派遣

活き生きネットワークの前身である“働く母の会”から変わらず、「困った時!うかがいます」を理念に、ベビーシッターがご自宅に伺い支援しています。



高齢者支援事業

居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)

要介護者や要支援者の方の相談や心身の状況に応じるとともに、適切な介護サービスを受けられるようケアプランの作成や各種サービス事業者・市町村等との連絡調整を行います。



利用者さんが住み慣れた地域で自分らしく生活していけるよう、様々な課題に真摯に寄り添い、共に考えていきます。また、地域のネットワーク作りのため、繋がりを広げていきたいと思っております！



訪問介護事業所・訪問介護相当サービス

利用者さんが住み慣れたご自宅で「自分らしく」生活していくために、ヘルパーが心を込めたサービスで、利用者さんが笑顔で暮らしていけるようにサポートしています。

お一人お一人の思いを大切に、真心と思いやりを持ったサービスで、「いきいきさんに頼みたい」と思っているだけで、ようスタッフ一丸となって支援させていただきます。



地域密着型通所介護・通所介護相当サービス「デイサービス喜楽庭」

喜楽庭1階

利用者さん一人一人の個性を尊重し、その方ひとりひとりに寄り添いながら活動しています。利用者さんにとって落ち着ける居場所として家庭的に過ごしています。

ご家族の声 古川千恵子さん

(お母様が訪問介護、通所介護、ケアマネ利用)

「もう帰っちゃうの～泊まって行って！」これは2、3年前までのヘルパーさんが帰られる時の母の言葉です。まもなく97才になる現在は認知症もさらに進み、ただニコニコとしています。ヘルパーさんが来てくださっている間、私は隣の我が家で雑事を済ませることが出来ます。週3回の喜楽庭さんもしっかり日課に組み込まれ、道路で車椅子に座りながらお迎えの車を待っています。喜楽庭さんは隣室の幼児達が時々遊びに来たりして、子ども大好きのお母はとてもうれしいと思います。家ではもう話さなくなったふるさとの富士川の話を得意になってしゃべっていることが日誌からもうかがわれ、うれしくなります。母が喜楽庭さんに出掛けている間は、私も自分の時間を持つことができ、その分母に優しく接することができるようになります。自分が疲れてくるとイライラしてしまい、そんな私に敏感に反応して母も反抗的になってしまっていますが、ヘルパーさんが見えると部屋の空気もさっと変わり、陰鬱ムードもいつか忘れてしまいます。長い長い介護生活は一人では心身ともに疲れ果ててしまっていますが、活き生きさんのおかげで何とか続けていられます。活き生きさんのスタッフ皆さんに共通しているのは「親身になってくれる温かさ」でしょうか。私ももう後期高齢者の仲間入り。いっ病を得るかわかりません。まだまだ長生きしそうな母共々これからもよろしくお願いいたします。

季節の行事を積極的に行っていきたい。インジェルの共進、成人さんと交流し利用者にとって家庭的で温かい、デイサービスにしていきます。



訪問看護ステーション事業所「あんどろ」

※介護保険、医療保険指定事業所

在宅療養をしている高齢者、障がい者等のご自宅に、看護師、作業療法士等が医師の指示のもと訪問して療養や健康維持のお手伝いをしています。



訪問看護を始めて6年が経ちました。少人数のステーションですが、スタッフ同士が助け合いながら日々利用者さんのことを考えながら訪問させていただいています。「来てもらえて良かった。安心した。」と笑っていただけるようにこれからもがんばります！



障がい者支援事業



居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援

- 居宅介護
知的障がい・身体障がいの方の自宅で支援をしています。
- 重度訪問介護
重度の肢体不自由者であって常時介護を有する障がいの方に、自宅において家事全般の支援と移動中の介護等の支援を行います。
- 同行援護
移動に著しい困難を有する視覚障がいのある方の外出・代筆・代読の支援をします。
- 移動支援(地域生活支援)
幅広い年齢層の知的障がい・身体障がいの方の外出支援をしています。その方その方に沿った余暇活動や生活に必要な外出の支援を行っています。

皆さまの笑顔がたくさん見られますように、ハルパーと皆さまのハイポーズとして日々努力します。急な依頼は迅速に対応していきます。

喜楽庭2階

生活介護「喜楽園」

18歳以上の療育手帳をお持ちの方で、就労しにくい方を対象としています。少人数で家庭的な雰囲気の中で、その方に合ったプログラムを提供していきます。



キラキラとした個性を大切にしたい人らしくいきいきと安心してすごして頂けるようなあったかい居場所を目指して支援しています。

放課後等デイサービス・児童発達支援「わくわく」

知的障がい児対応
くすくす

自閉症やダウン症、発達障がいなどを持つ0歳～18歳までの方が通所する、児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型です。



遊びや活動を通じて一人一人の個性を生かし、笑顔あふれる療育を目指します。お保護者の方との会話を大切にしい、お気軽に相談していただくよう努めます😊



ご家族の声 小林一美さん

息子は今年の3月に、約8年通わせていただいた「わくわく」を卒業しました。高校に入学してからは「働く人になりたい」という目標を立て、就労を目標としたクラスに入りましたが、視覚に障害のあるのは息子だけで、授業や活動全てにおいて遅れをとり、高校時代は相当大変な思いをしていたようです。その当時、息子は就労と家を出ることが目標でしたが、「わくわく」では息子の色々な将来の相談について調べてくださったり、親身に話を聞いてくださったり、とても真剣に向き合ってくださいました。現在はグループホームに入所し、B型就労に元気に通っています。今でも「わくわく」での思い出をよく話してくれます。「わくわく」で過ごす息子はいつも笑顔で、お迎えにいくと息子の嬉しそうな顔を見ることができて、私たち親子にとって「わくわく」は本当にありがたい息子の居場所でした。息子と関わってくださったスタッフの皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護「るんるん」

重症心身障がい児者対応
くすくす

児童発達支援(未就学児)、放課後等デイサービス(小・中・高)、生活介護(成人)の方が通っています。



ご利用者様、ご家族と寄り添いおやつ作りやゲーム、何気ない会話を大切にみんなでリラックスして楽しめるように誠心誠意かかわらせて頂きます。



ご家族の声 上野光生さん

活き生きネットワークの運動会に参加させていただきました。たくさんの声援やお声かけ、また温かい見守りを頂き、家族みんなで楽しい時間を過ごすことができてきました。多くのスタッフのご苦労があってこそだと思います。私は皆さまから「根拠」を感じました。スポーツの世界でも若い選手の活躍が目立ちます。サニブラウン選手、八村塁選手、大坂なおみ選手。みんな残念ながら「ハーフ」と呼ばれています。おそらく彼らは高い目標を持ち困難に立ち向かい、自分に必要なことに全力投球し、少しずつ前進し、挑戦し続けた結果だと思います。本当に必要なことは何かを問い続けた結果、生き方に根拠を持っているように感じます。私は「ハーフ」ではなく、私たち同様またそれ以上の「多様な日本人」と考えます。また「障害者」より「多様な仲間」と思います。運動会を通じてそのことを考えました。スタッフのより良くする工夫や配慮、そんな気持ちの伝わる小さな大きな世界でした。私たち家族も小さな力ですが、そんな大きな世界を応援していきたいです。

重症心身障がい児者対応

児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護「にこにこ」

楽しい事いっぱいのはりきる毎日
になるように、学校では出来ない
事や面白い事をしていきたいです。
みんなが安心して笑って過ごせる
場にしていきます。



重度の肢体不自由があり、療育手帳、身体手帳を
お持ちの方を受け入れています。
個々の機能を活かしながら療育支援、
医療的ケアを行っています。



2023年秋に
移転しました！

ご家族の声 吉川 智美さん

息子・心は医療的ケアがあり放課後等デイサービスでずっとお世話になっています。「生き生きさんに行くよ」と言うと、心はいつも笑顔になります。“本当に大好きな僕の居場所”になっているので、私も安心して送り出すことができます。私の体調不良の時、スタッフの方からお誘いのお電話をいただいた時には涙が出るほど嬉しかったです。妹たちも生き生きさんの行事には即答で参加！と答えるほど大好きです。これからも皆さんと一緒に友達を優しく見守りながら笑顔で引っ張っていけるように、心ととも頑張ります。これからもよろしくお願ひします。

児童発達支援「のびっこハウス」

喜楽庭1階

0歳から小学校就学前の療育を行う通所施設です。
基本的な生活リズムや生活習慣の確立、
丈夫な身体や社会性を育てています。



居宅訪問型児童発達支援

「のびっこハウス」

0歳から18歳までの外出が困難な重度の障がい児や
医療的ケア児などのご自宅に訪問し、
身体機能や生活能力の維持・向上を目指しています。

ご家族の声 木内 ゆうさん

生き生きネットワークさんには約6年間お世話になりました。あっという間でしたがたくさん遊ばせて頂いて経験を積んで心も体も本当に成長しました。時に、子育ての大変さに疲れることもありましたが、いつも優しく温かいスタッフの皆さまがとても可愛がってくださり、何度となく気持ちが救われました。兄弟は「おばあちゃんの所」と呼んでいます。子どもや私にとってもホッとできる場所でした。のびっこハウスでの経験を支えに小学生生活も楽しんで頑張りたいと思います。

ありのままの気持ちも安心して出し、
自分やお友達か大好きになる心を育み
意欲的に生活することを応援します。
子どもを真ん中にし親御さんと手も
繋ぎ子育てについて考え、共に成長
していくことも大切にしています。



委託事業



静岡市緊急サポートセンター事業

静岡市子ども未来局
子ども未来課

お子さんが急な病気などで仕事を休めない時や、
急な残業で保育園のお迎えやその後の世話ができない時など、
働く親御さんの困りごとをサポートします。
まかせて会員の研修会やコーディネート等を行っています。

働いている親御さんの為に
スタッフ、まかせて会員さんのお力を
借りていつも手助け
できるように頑張りたいと
思います。



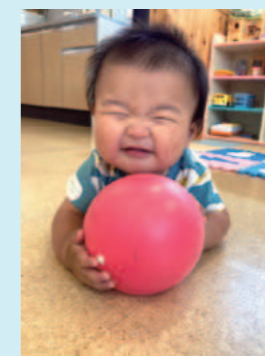
定員3名(緊急時4名迄)

静岡市清水病児・病後児保育室「虹いろ」

静岡市から委託を受け、清水区天神にて運営しています。
お子さんが病中または病気回復期であり、
保護者が就労等の理由で保育が必要になった場合に、
お子さんをお預かりしています。

静岡市子ども未来局
こども園課

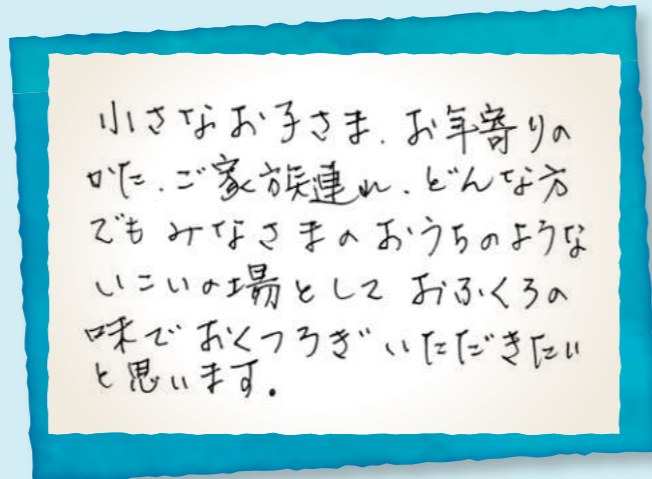
「虹いろ楽しかった〜！」
「また行きたい！」の声を
これからも聞けるように...
病気の子どもたちにとって
居心地のいい病児保育室で
あり続けたいと思います。



交流活動

みんなの居場所&こども食堂「もぐもぐキッチン」

食事を通して、“ほっとするひととき”を提供しています。



交流行事・催事主催

会員さんや地域の方々、関連機関の方々との交流や催事を行っています。地域の福祉団体等が開催するイベントにも積極的に参加・協催しています。



SDGs活動

静岡市SDGs宣言に参加し、5ゴールの目標達成を目指します。

- 飢餓をゼロに
- すべての人に健康と福祉を
- ジェンダー平等を実現しよう
- 住み続けられる街づくりを
- パートナリーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



杉本彰子と共に歩んだ 活き生きネットワーク 40年ものがたり ～明日のために今日したいこと

文・
鈴木真弓



代表・専務の
出合いの頃



はじまり・めぶく

— 1983年～1999年

すべての起点・静岡働く母の会

活き生きネットワークは、ご存知のとおり、1983年(昭和58年)に杉本彰子さんと望月洋子さんが作った『静岡働く母の会』が出発点です。

その名の通り、仕事を持つお母さんが困ったときに助け合うための、最初は小さな任意団体。今なら料金を払えば誰でも気軽に頼める外の組織がたくさんありますが、今から40年前の日本は、お母さんが仕事と子育てを両立するにはたくさんの壁が立ちだかっていた時代でした。(*注)

シングルマザー同士、同じ共同住宅で偶然知り合った彰子さんと洋子さんは、子どもたちが同じ保育園だったこともあって意気投合し、子どもが病気のときや、家の中のちょっとした困り事でお互いに助け合う間柄となりました。

やがて、「私も困っている」という共働き、自営業、転勤族などの女性が集まり、一方で幼稚園教諭、保育士、看護師など専門資格を持った女性に仲間に加わってもらい、空き時間に困り事のお宅へうかがうという会員組織『静岡働く母の会』に発展。ベビーシッターと病児保育の先駆けのような活動となりま

したが、公的支援はもちろん、特定のスポンサーやプロの指導も受けず、あくまでも当事者である「働く母」たちが自分たちで考え、自分たちでカバーする、等身大の手作り組織としてスタートしました。

(*注)

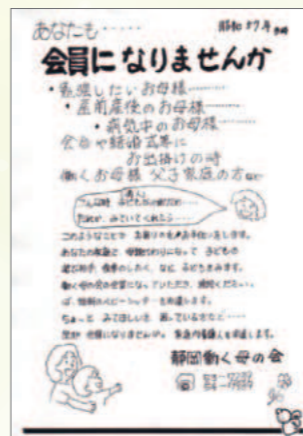
1983年、社会福祉事業法改正により、市町村と特別区の社会福祉協議会が法制化されました。勤労婦人福祉法から改正された男女雇用機会均等法が成立したのは2年後の1985年。“家庭奉仕員”が「ホームヘルパー」と改称され、級別養成研修制度が導入されたのは1991年のことですから、『静岡働く母の会』が生まれた当初は、その機運は醸成されつつも、公的な支援や理解のない暗中模索の時代だったのです。

静岡ウーマンの設立

1986年、静岡働く母の会は『静岡ウーマン』という会社に生まれ変わりました。

きっかけは「近所の子を預かって川遊びの事故で死なせてしまい1000万円の損害賠償」というニュース。任意団体のままでは損害保険料もまかなえないと、会の活動を断念せざるをえなかったのです。

しかしそこで諦めないのが彰子さん。幼い頃、病弱だった自分を支えてくれた家族やご近所への感謝、日本赤十字の青少年活動で出会った橋本祐子さんや、青少年赤十字OBだった吹浦忠正氏から紹介された日本の“国士”こと末次一郎氏への敬愛、そして31歳で突然死した夫への尽きない愛情・・・彰子さんには、自分を育ててくれたかけがえのない人々への恩返しとして、困っている人々に寄り添うという確たる意志と目標が芽生えていました。側にいた望月洋子さんが「この頃すでに、彰子さん自身は現在の活き生きネットワークの姿を構想していたんじゃないかしら」と後述しているとおり、社会的責任を果たしながらどんな困り事にも応えられる骨太の組織を創ろうと、まずは起業に着手したのです。



静岡働く母の会
チラシ





静岡リビング新聞記事と
有限会社静岡ウーマンのパンフレット



静岡ウーマンの主力事業となったハウスクリーニングは、モップ・バケツ・脚立・洗剤という必要最小限の機材だけでスタートしました。経理や秘書の経験はあっても肉体労働は初めてという彰子さんにとって、身体が慣れるまでは苦労や疲労の連続。それでも、糞尿まみれのくみ取り式トイレ掃除や、夜逃げ・孤独死・殺人現場の部屋の後片付けなど同業他社が嫌がる依頼も断らずにガムシャラにこなし、“大手よりも割安、きめ細かく丁寧”と評判を獲得しました。

ホームネットワーク事業に着手

静岡ウーマンの事業は順調に推移し、1994年に有限会社として法人化。社員3人、パートは男性も含めて20人となり、内装工事も手掛けるようになりました。

1995年、彰子さんは恩師である橋本祐子さんの訃報に接します。日本赤十字社青少年課長だった橋本さんは、日本の若者にボランティア活動を根付かせたといわれ、女性として世界で初めて国際赤十字の名誉勲章アンリ・デュナン賞を受賞した人。彰子さんは高校1年生のときに青少年赤十字の合宿で出会って薫陶を受け、夫を亡くした28歳のときには、「活々と生きよ」という至高の言葉を授けてもらいました。

葬儀場となった東京の修道院に駆けつけて、ご遺体に「ハシ先生、私は何をやらいいんですかね、でも何かできることをやってみますね」と語りかけた彰子さん。この時、助け合い活動への再チャレンジを決意し、1996年には所属する社団法人静岡県ニュービジネス協議会の表彰制度・静岡県ニュー

ビジネス大賞ビジネス夢プラン部門に、『キンダーネットワークin静岡』構想を論文にして応募します。内容は夢のベビーシッターサービスとして、24時間対応の家事付きベビーシッターサービスを提案したもの。論文は見事、優秀賞を獲得しました。



末次一郎先生筆
(橋本祐子さんの代筆)



静岡県ニュービジネス大賞の賞状

次いで社内ベンチャーとしてホームネットワーク事業部を立ち上げ、1997年、有限会社静岡ウーマンホームネットワークとして正式スタート。「困った時！うかがいます」をキャッチフレーズに、家庭内の困り事を支え合う24時間受付の家事サービス事業をスタートさせました。入会金は5000円、年会費6000円。会員には1時間あたり最低1500円の料金(月～土・9時～17時)という料金設定で、4カ月後には会員50名、ヘルパー40名強が登録しました。

彰子さんは1997年11月の活き生きほっと通信に「いち経営者として会社の存続はもちろん、この仕事のもつ性質上、営利目的だけでは計れない大切な役目をなっていると思います。これから会員の皆様、登録ヘルパーの方々に情報発信・勉強会の開催・交流会の開催などを通してより深いネットワークづくりをしていきたいと思っております」と寄稿し、現在の活き生きの未来予想図を見事に描ききっています。

静岡ウーマンでの堅実な仕事ぶりが評価されていたことも後押しとなり、ホームネットワーク事業は着々と実績を上げました。

NPO法人活き生きネットワークの誕生

1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、市民活動団体、ボランティア団体等で法人格の必要性がクローズアップされ、国会でも再三法案が提出され、1998年、特定非営利活動促進法(NPO法)が成立しました。市民活動団体が法人格を得ることで、

公益に寄与する非営利活動が社会的信頼のもとで健全に発展するものと期待が高まりました。

NPO法成立の報に接した彰子さんは、「これこそが私のやりたかったこと!」と大いに奮い立ちます。彰子さんの脳裏には、橋本祐子さんの口癖だった「明日は今日つくられる」「できるかできないかではなく、やるかやらないか」がツねにリフレインしていたのです。

“本当にしたいこと”にたどり着いた彰子さんの決断は早いものでした。法人組織としての有限会社静岡ウーマンホームネットワークを売却することを決め、新たにNPO法人の設立に着手しました。

NPO法が出来たばかりの頃でしたから、NPO法人や非営利活動に対する認識が浸透しきれず、静岡ウーマンの社員や会員からも「非営利で活動できる?」「ボランティアとどう違うの?」という声が上がりました。そのつど彰子さんは「営利を追求する組織ではない」「儲けが出て一般企業のように役員や社員に利益を配当することはできない」「団体として事業継続に必要な収益事業は行う」と根気強く解説しました。

団体名を決めようと議論し、なかなか妙案が出てこない中、若い男性スタッフが事務所の壁に飾られた色紙の「活々と生きよ」に目を留めます。彰子さんが橋本祐子さんから授かった金言を、末次一郎氏が代筆してくれたものでした。

こうして『NPO法人活き生きネットワーク』が誕生し、1999年4月、静岡県でNPO法人認定第一号となったのです。

NPOの船出となったこのとき、まさに「明日のため、今、これをしたいんだ」の心境だったに違いありません。



NPO法人認証式と新聞記事



そだち・いどむ

— 1999年～2015年

NPO法人化と介護保険制度のスタート

1999年4月28日、静岡県庁でNPO認証式が執り行われ、2日後の4月30日、NPO法人活き生きネットワークは法人登記されました。会員は理事・運営委員・協力会社・個人合わせて25人。

「設立趣意書」の一部を抜粋します。

私たち「活き生きネットワーク」が目指しているのは、「助けてほしい」という人と、「力になりたい」という人々・諸機関の間を結ぶシステムとしての活動です。「助けてほしい」内容は、人間の営みそのもの「生活」そのものであり、過去においては家族の中で解決できたことで、きっとだれにでもできることでしょう。しかし、24時間365日という「生活」を共にしないものが「助けてほしい」に答えることは難しいことです。



また「力になりたい」側も、どんな形で力になることができるのか、公的機関の場合もどんな状況の人を対象とした公的サービスなのか、各種民間企業や法人の場合もどんなサービスを実施できるのか、実に多様です。



人間社会の精神的側面、物理的側面をはじめ、トータルなケアを過去12年間の活動の中で考えてきました。「力になりたい」と思う人々や、各団体や各分野の方々(ワーカー、医師、薬剤師、介護士、ソーシャルワーカー)とのネットワークが連携して、「助けてほしい」人が必要としているものに応え、もっとも適切なものを提供していくことを使命としています。



私たち「活き生きネットワーク」が目指しているのは「助けてほしい」という人に「力になりたい」から、「力になるネットワークを拡大すること」です。「助けてほしい」と「力になりたい」という人々・諸機関の間を結ぶシステムをもっともっと拡大することです。

「助けてほしい」人が、また別のときには「力になりたい」側になることもあるのですから。ひとりでも多くの皆様と情報を与え合い、仲間になっていただくことで、ネットワークの和が広がることを期待しつつ、この活動を発展させていきたいと思っております。



活き生きネットワーク
パンフレット

NPO法人活き生きネットワーク発足の翌年(2000年)、介護保険制度がスタートしました。1997年に成立した介護保険法に基づいての施行です。活き生きネットワークでは、介護保険制度に基づくサービス提供

事業者と居宅介護支援事業者の申請を行い、制度スタートと同時にホームヘルパー、看護師、介護福祉士等を会員のお宅へ派遣する活動を開始。さらに事務所横にプレハブ施設・いきいきハウスを新設し、デイサービスを提供する通所施設「あんど」を開所しました。

一方、ベビーシッター事業ではいきいきハウス2階に託児ルーム「エンジェルハウス」を開所し、常時10~15人を受入れ、会員登録した30人の保育士やベビーシッターが交替で対応しました。

2000年には静岡県から委託され、養護学校に通う重度障がい児童・生徒の医療的ケアを行う看護師の派遣事業も始めました。今までは保護者が授業中も付きっきりで行っていた、たんの吸引、チューブ



ベビーシッター派遣

ホームヘルパー派遣



朝日新聞記事

を使っての栄養分や水分の注入などの医療的ケアを看護師に託せるとあって、保護者や養護学校からの期待や信頼は絶大。派遣要請が増え、看護師の確保に奔走しました。

当時の彰子さんは夜中の零時を過ぎても事務所詰めという状況が続きました。介護保険制度に参入した以上、一定の基準のワクにはまり、「しなくてはならないこと」「したくでもできないこと」が増え、同時に新しいサービスを次々とこなす毎日。疲労感が抜けず、大きなプレッシャーとストレスに苛まれ、心が折れそうになることも。そんなとき、スタッフの顔を見て「みんなも疲れているんだ、みんなつらいんだ」と自分に言い聞かせ、悩みや愚痴を聞いてくれる友人に支えられたといいます。

静岡県初の複合型デイサービス『喜楽庭』開所

2003年11月、静岡県では初となる高齢者・障がい者・乳幼児の複合型デイサービス施設『喜楽庭』が開所しました。

この年に施行された国の支援費制度(※注)を活用し、活き生きネットワーク事務所から徒歩1分・スプーが冷めない距離で、静岡県立静岡高校グラウンドに隣接する、木造2階建て築62年という和風民家を買ってリノベーションしたもので、敷地面積350平方メートル、延床面積約260平方メートル。小学生から高校生対象の障がい児童デイサービス、軽作業や買い物、園芸セラピーなどを行う知的障がい者デイサービス、整体やマッサージのサービスも行う認知症高齢者デイサービス、一般高齢者デイサービス、小学生までの子どもを預かる託児ルームを併設。介護保険や支援費制度のワクに入らない会員も受入れOKとしました。

喜楽庭の大きな特徴は、当時、類似の複合型施設にはなかった「共有の居間」があること。「お年寄りには小さな子どもと一緒に過ごせば自然に和める。障がい者とも、一緒にいるのが当たり前、と思えるようになれば嬉しい」と彰子さん。「こういう垣根なしの大きな施設を作ったかった長年の夢がようやく叶った」とホッと胸をなで下ろしました。

ひとつ屋根にいろいろな人が集う喜楽庭の空間は、サービスの担い手にも変化をもたらしました。

働きたいと集ってくる人々の中には、下は15歳、上は80歳、海外留学生、人との関わりが苦手な人、精神障がいを持つ人など多才なパーソナリティがいます。



喜楽庭オープンの様子

そこで、高齢者のお世話は同年代の高齢者がじっくり来る、人との関わりは苦手でも料理や掃除はコツコツできる、小さな子どもたちと飛び跳ねる体力がある等々、それぞれの持ち味を活かしたサービスが提供できるよう、彰子さんはじめ運営スタッフも気を配りました。

「支援を受けたい人や、自分が何かしら役に立つかも知れないと思う人が自然に集まってきて、その人の色を困った人に照らし合わせるができる。いろいろな人が集うからこそ、自分の良さを発揮できる」と彰子さん。スタッフの中から、通所者を楽ませるためのイベントやチャリティーコンサートなど企画アイデアが次々と生まれ、喜楽庭は活き生きネットワークの大きな求心力となっていきました。

なお2006年3月に他界された理事の臼井茂氏が、喜楽庭購入時の借入金の残額を寄付するとの遺言を遺されました。「お金のある人はお金を、力のある人は力を、知恵のある人は知恵を出す」が口癖だった臼井氏。活き生きの存在を「生きた証だ」と称したその遺志は、彰子さんの糧となって息づいています。

(※注・支援費制度)

身体障害者(児)及び知的障害者(児)が、その必要に応じて市町村から各種の情報提供や適切なサービス選択の為の相談支援を受け、利用するサービスの種類ごとに支援費の支給を受け、事業者との契約に基づいてサービスを利用できる制度。ホームヘルプやデイサービス、ショートステイなどの居宅サービスと、更生施設や療護施設、授産施設などを利用する施設サービスの二本立てを可能にしました。

「あんな強い人になりたい」

2004年初頭、彰子さんは静岡市立安東小学校6年生の4クラスで45分間、自身の体験をお話する機会がありました。4月から総合学習のボランティア授業について考える静岡市の審議委員を務めることになったためです。

「生徒さんの感想文」の一つを紹介します。

今日、杉本彰子さんのお話を聞いて、泣きそうになりました。私の母と言うことが同じだったからです。

私は受容が苦手です。人の言うこと、自分の意見と違ったりすることをなかなか受容できません。でも自分の言うことは認めてもらいたいと思ってしまうのです。ワガママ・・・です。

「人の幸せは人にしかわからない」って言っていました。本当にそうです。人にとって何が本当の幸せか分かりません。「幸せ」を高いレベルにつける人と、ごく自然なところにつける人とで違います。そういう幸せ。

杉本さんにとって、それは人に尽くすことなんだなあと分かりました。マザーテレサみたいな人です。マザーテレサも、自分が倒れかねない位、人のために働いた人です。杉本さんもさんざん大変な目にあっています。

それでも、なぜこのお仕事を続けられることができたのでしょうか。それはやっぱり杉本さんがそういう困っている人に対する「愛」が深かったからだと思います。すごく辛かったと思います。私はまだ保護者もいるし、頼れます。けど杉本さんの立場だったら自分が子どもを守らなければいけない、働かなければいけない、頼れる人もいないで本当に大変だと思います。

あんな強い人になりたい。すごく良い体験をしました。

ふじのくにNPO活動センターと光ブロードバンド在宅ワーク

2004年10月、静岡県ふじのくにNPO活動センターの運営管理団体として、ふじのくにNPO活動推進委員会FJIが受託先として運営を始めました。

FJIはNPO法人の運営コンサルタント「しずおかMSO」と活き生きネットワークの連合体。静岡県のNPO推進施策を進めるため、県内に3つのパレット(ふじのくにNPO活動センター、東部・西部地域交



在宅テレワーク

ふじのくに
NPO活動推進委員会FJI



流プラザ)を設置し、活動の場の提供、情報提供、相談、交流・連携、人材育成、行政との協働の窓口など様々な支援活動を担うことになったのです。

彰子さんは代表の日誌一幸氏(静岡大学教授=当時)とともに県内のNPO研修講座やフォーラムの開催、情報誌「ぱれっとコミュニケーション」の制作などを手掛けました。代表のこのような涉外活動が可能になったのも、生き生きの各セクションのスタッフによる、NPO法人としての運営が安定してきた証といえるでしょう。

2005年にはNTT西日本グループが県内で始めた光ブロードバンド活用の在宅テレワーク提供募集に名乗りを上げ、通勤困難な障がい者の在宅ワークとして『デジタル地図バーチャルファクトリ(光ブロードバンド回線活用によるデジタル地図の作成・編集)』をスタート。ワーカーとなった伊東高志さん(27歳=当時)は、仕事を覚えたてのタイミングで入院してしまい、退院後も無理が効かない状態でしたが「マイペースでやれた。腕が上ればランクが上がるしくみなので、全部覚えてランクアップしていきたい。焦らなくても地道に続けたい」とつねに前向きに取り組んでくれました。

そんな伊東さんを見守る彰子さんは「ほかにも、障がいを持つ以前に身に付けていたパソコン能力を発揮する熟年、自分にも生きがいがあったと喜ぶ若い女性など真剣に取り組んでくれたスタッフのおかげで、NTTさんから“静岡チームは仕事が丁寧”と評価してもらった」と手応えを得ます。

2009年まで続いたこの事業に、無痛無汗症という難病を抱えながら懸命に向き合い、2010年4月、天国に旅立った伊東さんは、生き生きに大きな足跡を残してくれました。

24時間病児病後児預かりの緊サポスタート

2005年は、生き生きにとって大きな新規事業に着手した年でもありました。厚生労働省がこの年から始めた子育て緊急サポート事業です。

子どもの病気や急な残業など緊急の際に地域の協力者が子どもを預かることで、仕事と育児の両立を支えようというもので、健康児を平日17時までしか預かれないファミリーサポートセンターと違い、病気の子どもを24時間預かるハードルの高いサービスですが、彰子さんにしてみれば、夫を亡くして2児を抱え、途方に暮れた28歳のときの経験の有無を言わせないモチベーションとなり、「これは絶対に必要。誰かがやらなければならないのなら、自分たちが」という思いで臨むことに。静岡働く母の会、そして静岡ウーマン時代から培ってきた24時間対応の託児サービスやヘルパー派遣による病児保育経験の一つひとつが、ハードルの高い事業を背負う責任と自信とに結実したのです。彰子さんたちの長年の思いが、行政・企業の施策として社会的に認められ、全国に広がり、定着することになったわけで、時代がようやく生き生きに追いついてきた、ということかもしれません。

2006年には内閣府男女共同参画局より、顕著な功績があった団体として「女性のチャレンジ支援賞」を受賞することになり、彰子さんは望月専務とともに6月26日、首相官邸で行われた表彰式に出席。猪口邦子内閣府特命担当大臣(男女共同参画担当)より表彰状を授与されました。夕方には首相官邸で懇談会があり、小泉首相、安倍官房長官、猪口大臣と記念撮影。専務曰く「今までの長い道のりとこれから続く道の途中の、ほんのちょっぴり気疲れしながらも面白い一日」を過ごしました。

2007年には安倍晋三首相が始めた「再チャレンジ支援功労者表彰」の第1回受賞者(全国24団体・個人)の一つに選ばれました。また静岡市のツインメッセで開催された第7回国際アビリンピック会場で、皇太子殿下が生き生きのブースにお立ち寄りに



女性のチャレンジ支援賞授賞式



なり、激励をいただきました。病児保育のベビーシッター派遣から始まった取組みが、女性、高齢者、障がい者の再チャレンジの場づくりや活動として認められたことは、自身がチャレンジをし続ける彰子さんにとっても心強いものとなりました。

なお、緊急サポート事業は2009年から国から静岡市の緊急サポートセンターに移管され、生き生きが継続して受託しています。



再チャレンジ支援功労者表彰授賞式

福祉介護職の魅力発見ツアー受託

事業が拡大するにつれ、課題となるのは人材育成です。生き生きは、彰子さん自身が“働きたいとやって来る人はどんな人でも受け入れる”という信念のもと、つねに人材の新陳代謝を繰り返していますが、介護・福祉分野を広く見渡せば人材不足は明白で、静岡県の求人状況も全国平均を下回っていました。

2009年、静岡県が始めた福祉・介護職の魅力発見ツアーの企画運営を受託することになり、2015年までの6年間、県東部、中部、西部の各地で座学講座+施設見学を開催。失業保険受給者、再就職希望者、就職先が決まらない高校大学卒業生、福祉・介護分野への転職希望者などさまざまな事情の人々を毎回20~50人受入れ、実際の業務への理解や具体的な就活へとつなげる努力を重ねました(ちなみに生き生きの現事務局長の岡田さんはこのツアーの第1回参加者でした)。



ツアーの様子と新聞記事



毎年20回以上の開催で、座学講座の講師や見学先の施設選定と交渉、当日の運営など煩雑な業務が多かったものの、彰子さん自身の人脈やふじのくにNPO活動センター活動でのつながりが奏功し、生き生きスタッフにとっても他施設の取組みを学ぶ貴重な機会となり、実りある事業となりました。

訪問先の施設長が語る熱い思い、その施設に転職してやりがいを実感しているスタッフの肉声、実際の入所者や現場スタッフの生の姿は、今まで接点の無かった参加者には大きなインパクトがあったようで、彰子さんは「再就職が決まってくれるのが一番嬉しいけれど、ツアーに参加して元気になった、希望を感じたという感想がとても嬉しかった」と振り返ります。

2010年には訪問介護員2級養成研修をスタート。ケアラーを支えるための実態調査、団塊世代の地域デビュー応援プロジェクト、社会的事業就労者養成研修などの社会的活動を行い、地域福祉の課題解決に向けたNPO法人としての取り組みを進めました。

「虹いろ」「くすくす」「にこにこ」の新設

2011年から2015年にかけては、子どもをケアする環境が大きく進展しました。

まず2011年には喜楽庭で行っていた児童デイサービスを、就学して知能障がいのあるお子さんを預かる放課後等デイサービス事業所と、未就学で知能障がいのあるお子さんのための児童発達支援事業所に分けました。そして翌2012年に2つの事業所をハセコーポ1階に移し、2013年には重症心身障がい児対応事業を追加。どんな状態のお子さんでも受け入れる体制を整えました。

2013年には静岡市清水区に新設された病児・病後児保育室「虹いろ」の運営を受託し、保育士と看護師の2名が病気のお子さん(定員3名)を一時保育することになりました。

そして2014年4月、放課後等デイサービスと児童発達支援を専門に担当する知的障がい児と重症心身障がい児のための総合施設「くすくす」を静岡県立静岡高校グラウンドの向かいに新設しました。喜楽庭の開所以来、久しぶりの新施設誕生とあって、スタッフの意気はうなぎのぼり。2015年には重症心身障がい児対応の施設を「にこにこ」と命名し、いきいきハウス1階に。いきいきハウスで行ってい

た託児ルーム「エンジェルハウス」は喜楽庭に移すことにしました。

NPO法人となって15年が経ち、活き生きほっと通信に「自分には能力や資格はないけれど誰かが持っている。なんとと言っても利用される障がいのある子どもたちのご家族から勇気をいただくことが多い。そして、利用者さん自身、高齢の方や障がい者さんから生きる姿勢を学ばせていただいている」と記した彰子さん。さらなるステップの時期が迫っていました。



病児・病後児保育室「虹いろ」

くすくす

くふう・つなげる

— 2016年～

認定NPO法人格を取得

2015年の介護保険法改正にともない、2016年度から介護分野は大きく変わりました。具体的には、65歳以上で一定以上所得のある人は「利用者負担割合」と「利用者負担上限額」が引き上げとなり、負担割合が1割から2割に。施設入所者、ショートステイ利用者、通所サービス利用者も、在宅の場合と同様、居住費・食費を負担することになりました。

また、特別養護老人ホームの入所要件が、原則「要介護1」以上から「要介護3」以上へと変更になりました。ホームに入れない要介護者が激増することになり、今後、高齢者人口が増える一方の状況で介護業界の役割はますます重く、しかも多様化・複雑化していくのでした。

この頃から、静岡市内でも規模の大小さまざまな介護施設が増え、サービスの内容も手取り足取りのケアからレクリエーション、リハビリを強みにするなど多種多様なメニューが登場し始めます。

活き生きネットワークでは、静岡県が提唱するふじのくに型支援＝年齢や障がいの有無に垣根のない支援を、2003年の喜楽庭開所から先駆けて実

践していることから、その価値をさらに高めようと託児ルームエンジェルハウスを喜楽庭に移し、よりいっそう家庭的で温かなホームの運営に臨みました。介護一辺倒にならず、障がい者や児童福祉にも同じように軸足を置き続けたのです。

2016年12月、活き生きネットワークは認定NPO法人格を取得し、市役所で認定書を授与されました。静岡市内のNPO法人としては6番目の認定でした。

2001年度に始まった認定特定非営利活動法人制度（認定NPO法人制度）は、NPO法人への寄付を促すことにより、NPO法人の活動を支援するために税制上の優遇措置として設けられた制度。個人の所得税・住民税が控除の対象になり、法人に認められる枠も大きくなります。ただし厳格な審査を要するため、認定を受けられたNPO法人は全体の2%程度。それだけに、法人としての一定水準の信頼性が確保され、一般のNPO法人との大きな差別化にもなるわけです。

活き生の現場の活動に直接の影響はありませんが、年会費に寄付額を上乗せする会員や寄付団体が増え、財政上のメリットにつながることになりました。

2017年1月29日には認定を記念し、シンポジウム&感謝会をカフェレストランTemboo（静岡市駿河区）にて開催。日詰一幸氏（静岡大学教授＝当時）、田中尚輝氏（NPO法人市民福祉団体全国協議会専務理事＝当時）、牧野善浴氏（NPO法人静岡市障害者協会会長＝当時）、大石玲子氏（静岡県健康福祉部理事＝当時）によるパネルディスカッションや、車椅子のシンガーソングライター森圭一郎さんのアコースティックギターライブなどで認定を祝いました。



認定NPO法人認証式

シンポジウム&感謝祭の様子

こども食堂「もぐもぐキッチン」の開店

2017年2月、彰子さんがかねてから熱望していた「みんなの居場所・こども食堂～もぐもぐキッチン」がオープンしました。

事務所駐車場の隣接地を所有する方が3階建ての施設を建ててくださり、1階にもぐもぐキッチン、2階に4月から「訪問看護ステーションあんどろ」を開所することになったのです。

もぐもぐキッチンは彰子さんやスタッフの手作り家庭料理を100円から500円という価格で提供する店。この価格で提供できるのは、理事や運営委員のボランティアや手の空いたスタッフが交替で店を切り盛りし、多くの食材を農家や食品会社などから寄付してもらえる活き生きならではの強み。子どもやその家族はもちろん、高齢者や独り暮らしの人々の居場所になるようにと門戸を開き、あっという間にリピーターができました。

開店当初、調理や接客や食材手配など八面六臂の活躍で張り切っていた彰子さんは、無理がたたってギックリ腰になってしまいましたが、それでも通り返りのお客さんがフラッと立ち寄り、子ども食堂の運営を目指す見学者が集まったり、彰子さんや活き生きスタッフに気軽に会えるようになったと会員さんの来訪回数が増えるなど、活き生の新しい元気スポットとなりました。



「もぐもぐキッチン」の様子

「のびっこハウス」「るんるん」の開設

2017年4月の訪問看護ステーションあんどろの開所に続き、2017年9月には「児童発達支援のびっこハウス」が喜楽庭内にオープンしました。「くすくす」で行っていた発達支援が必要な児童のケアを、エンジェルハウスの幼児や高齢者・障がい者がいる喜楽庭で行い、他者とのふれあいや交流を経験してもら

うことで、基本的な生活習慣の確立と心身の健康づくりにつなげようという試み。人格形成の重要な時期とされる0歳から就学前の子どもの、のびのびとした育ちを全方位で支えようと、スタッフも力を入れました。

2018年9月には、喜楽庭内に「居宅訪問型児童発達支援のびっこ」がオープンしました。外出困難な重度の障がいを持つ子どもや医療的ケアが必要な子どもの自宅へ保育士などの専門スタッフが訪問し、遊びを通して日常生活に必要な動作や知識の取得支援を行うものです。対象は0歳から18歳。

このように事業部門を柔軟に分け、利用者の状態や家庭事情に即した支援を可能にする体制づくりは、活き生の真骨頂ともいえるでしょう。「できないではなく、やるかやらないか」という橋本祐子さんの言葉がそのまま実践につながっているかのようです。

のびっこハウスの利用者Hさんの「ご家族から届いた感謝の手紙」を紹介します。

Hの発達が遅れていると分かった時、健常児のことは友達に聞けるけど障がい児のことは誰が教えてくれるの？どうやって育てていけばいいの？と、知らない世界にいきなり投げ出されたような感じでした。病院をいくつも回り、検査を受け、そのつど大泣きするHを見て「可愛いな」と思える余裕はありませんでした。

そんな中、活き生きネットワークの存在を教えてもらい、のびっこハウスで預かってもらうようになってからは、先生がHのお世話をしてくださるようになり、心も体もとても楽になりました。積極的に椅子に座らせて遊んでくださったおかげで、椅子にも座れるようになり、少しずつ我が子を可愛く思えるようになっていきました。

先生にベビーシッターとして家に来ていただいたこともとても助かりました。てんかん発作の症状が分かりにくいので普段の様子が分かっている方ではないと預けるのが不安ですが、のびっこハウスの先生なら安心しました。そして先生は子どもだけでなく親の私にもよく声を掛けてくださり、親身に話を聞いてくれ、無理を聞いてくれました。

皆さんの温かさ、優しさは一生忘れません。

発足35周年・NPO法人認定20周年記念イベント

2019年1月、発足35周年・NPO法人認定20周年を記念する「記念講演&コンサート・ふれあいフェスティバル」を静岡県男女共同参画センターあざれあで開催しました。記念講師には、彰子さんの若き時代からの盟友・吹浦忠正氏(NPO法人ユーラシア21研究所理事長)を招き、東京五輪国旗物語～オリンピックと国旗の話という興味深いテーマでお話しいただきました。吹浦氏はNHK大河ドラマ『いだてん』で国旗監修も担当された、日本を代表する旗章学者です。



記念イベントの様子

コンサートでは島田市出身の気鋭のピアニスト鈴木啓資さんとバイオリニスト白石彩音さん、活き生きではお馴染みの森圭一郎さんが素敵なパフォーマンスとトークを披露。ふれあいフェスティバルでは人形劇(にっこり座)、大しゃぼんだま(遊び子育て研究協会)からた大会(しぞーか防災かるた委員会)ほか物販やゲームコーナーを盛り上げる多彩な団体が来場者をもてなしてくれました。

毎年さまざまなイベントを手作りで企画運営するスタッフは、多忙な日常業務の中でも遊び心を忘れず、楽しいことを一緒に創り上げ、盛り上げる醍醐味を共有しています。そこで培われた結束力が、大きな周年記念事業のたびに発揮され、この時の記念事業も見事に完走できたのでした。

新型コロナウイルスとの闘い

2020年から全世界を覆った新型コロナウイルス感染症の猛威は、対面支援を旨とする活き生きネットワークの諸事業を直撃しました。

4月に緊急事態宣言が発令されてからは「70年近く生きてきて、これまでも様々な怖い体験をしたが、今回ばかりは自分の知識や許容量を超える事態」という彰子さん。マスク着用がしづらい利用者がある場所で食事をしたり遊んだりする事業所では、やむをえず人数を制限したり、接触の少ない室内遊びを工夫したりと、手探りで対応を余儀なくされました。

新型コロナ患者がいる病院の通院入院の支援や、コロナ患者の自宅へのヘルパー派遣やデイサービス受け入れなど、とまどう依頼も少なくなかったものの、彰子さんは「第一に利用者さん自身の希望、次にご家族の意向、そして担当者の判断を基準に、誰にも感染することなく無事に活き生きを利用してもらうことを最大限考える」「自分の命は自分で守り、自分で決めるしかない」と腹をくくっていました。顧問や理事に、頼れる医師や看護師がいることが何より心強かったことでしょう。

コロナ禍の中、2021年には介護職員初任者研修を開講し、静岡県のアクティブシニア介護分野就業促進業務を受託しました。2022年3月には、5年目を迎えた児童発達支援のびっこハウスで初めての卒園式を行いました。通い始めの頃からは想像もつかない卒園児の凛々しい姿に、担当スタッフも感無量だったようです。

同じく5年目を迎えた訪問看護ステーションあんどでは、在宅での看取り支援も行うようになりました。



介護職員初任者研修の様子

彰子さんはこの頃の心境をほっと通信に「コロナ禍でまだできないことがあるし、ウクライナで街が破壊されたり家族が離ればなれになったりする光景を見るのは辛いけれども、普通の日常を大切に

たい。私たちには守りたい人がいて守りたいことがある。未来を託す子どもたちをお預かりしている。そのご家族には配慮が必要な方も多く、関係機関との密な連携が必須になっている。世の中のせいにはしたくない。まだまだやりたいことがたくさんある」と綴っています。

40周年、イベント再始動と新施設建設

2023年の年明け。彰子さんは「くすくす」に隣接する約150坪の空地を購入する決断をしました。理事会で最初に諮ったときは、高額な土地代に見合う効果を疑問視する意見もありましたが、スタッフからの「子どもたちが雨の日も思い切り遊べる場がほしい」「畑を作りたい」「看取りをやりたい」という声が後押しとなり、理事会の合意を得、ここに新たな施設を作ることとなりました。

新施設では医療的ケアが必要な成人の生活介護、重症児童のケア、放課後等デイサービスのほか、もぐもぐキッチン発展型、研修ルームの設置も計画しています。

建設費用を抑えようとコンテナハウスやプレハブを検討していた中、在来工法を得意とする建築家と出会い、オクシズの木材を活用すれば補助を受けられるという情報を得て、木造りの温かみある理想的な施設ができることに。1階のケアルームは床暖房で機械浴ができる風呂場付き。2階には多目的ルームが整備され、スタッフ研修や子どもたちの室内遊びに活用できることになりました。

活き生の夢が詰まった新施設の建設が着々と進む中、2023年度は対面での集会やイベントが次々と再始動しました。

新型コロナウイルスやインフルエンザなどへの感染対策に油断は禁物ですが、発足40周年という節目の年を多くの笑顔で迎えられることに、ひとまず、ひと安心の彰子さん。「人にどう思われるかより、どうありたいかを大切に。私も、もう少し仕事(志事)をしながら遊び心を大切に歩いて行きたい」と力を込めます。



太陽光発電パネル



2階多目的室



機械浴ができる浴室

くすくす
2号館



床暖房完備



11月26日 開所式

つなげていきたい

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／訪問看護ステーション担当
岡本 裕乃



私は5年前から訪問看護に関わっています。総合病院に勤務していた時、これからは訪問看護の時代だからと声をかけていただき復帰しました。

Dr.コトーの看護師に憧れていた私には、とても魅力的でした。一人一人に寄り添う看護は活き生きネットワークの思いそのものだと思っています。思い起こせば20年前に私は活き生きネットワークに出会いました。困った時の活き生きさんとして、代表をはじめ職員みなさんが活動している姿に心が温かくなったのを覚えています。私の息子も中学生から不登校になり、生き方すらもわからなかったときに救ってもらった一人でした。

世の中が変化していく中、変わらない思いをつなげている活き生きネットワークはすごいと思います。この思いや活動を次の世代にしっかりつなげていくことが私の役割だと感じています。

今まで関わってくれた方々に感謝し、これからもますます応援していただくためにも、人とのつながりを大切にしていきたいです。

「困った時の活き生きさん」「一人一人が活き活きと生きるために」、この思いを忘れることなく、若い世代に伝える努力をしています。

現場、大好き！

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／知的障がい児（わくわく）担当
上原 直高



活き生きネットワークで私は「利用者さん一人一人が活き活きと生活する」という理念のもと、児童デイサービス、生活介護、通所介護、訪問介護、居宅訪問、移動支援など様々な仕事を経験させていただきました。

保育士として働いていた前職では、障がい児者の方や高齢者さんと接することも少なかったため、入職当時は戸惑いもありました。しかし、私が困っていた時には仲間たちが相談に乗ってくれたおかげで乗り切ることができ、壁を越えた後の達成感を感じることができました。また、ご利用者さんに対して忍耐強く誠意を持って対応することで信頼関係を築ける喜びを知り、「人とのつながりの大事さ、素晴らしさ」を学ばせていただきました。その時の学びが今の私の財産となっていると思います。

そのような愛してやまないご利用者さんや仲間たちとの触れ合いや笑顔に私自身、生かされ成長させていただけていると感じています。

活き生きネットワークに入り、約15年。私は、今でも現場が大好きです。だからこそ、これからもご利用者さんや保護者の皆さんとのコミュニケーションを大切に、さらに素晴らしい活き生きネットワークになれるよう、仲間と一緒に精進していこうと思います。

私の原点

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／重症心身障がい児・者（にこにこ）担当
森藤 立志



私が代表と出会ったのは、小学3年生の時。引っ越しをした家の隣に住んでいたのが代表でした。その頃から元気の良いおばさんだと思っていた。

学生時代は、長期休暇にハウスクリーニングのアルバイトをするようになりました。当時の現場は、男の職場でした。女性中心の「静岡ウーマン」では、代表も苦勞をされていたと今となっては思います。仕事をするからには年齢も性別も関係なくプロとしての自覚を持ってやりなさい、と一緒に働きながら学ばせていただきました。現場帰りにはよく喫茶店でお茶をして、皆で話をするのがとても楽しかったと覚えています。それが私の活き生きネットワークでの原点になります。

活き生きネットワークの職員として21年お世話になっています。活動を続けていく中で、仲間がたくさん増えました。時に別れもありますが、出会えた皆さんのことはいつでも心にあり、つらい時には励ましてもらい、感謝しています。

活き生きネットワークの事業は、多様化され変化を続けています。しかし変わらないものがあります。10代の頃アルバイトで教わった、やる時はやる・目の前に起きている事例に真摯に向き合う・困っている人の視点に立ち考えることは、まさに今の活き生きの理念だったと思います。

これからも理念を大切に、仲間も大切に、歩み続けていけたら嬉しいです。

未来へと歩み続ける想い

認定NPO法人活き生きネットワーク理事／事務局長
岡田 実



1983年、私が生まれる前年に、前身となる「静岡働く母の会」が誕生しました。その歴史の中で、多くの方々のご支援と想いによって、私たちは今日に至っています。この深い感謝の気持ちは、言葉だけでは伝えきれません。

14年前に入職した際、人の温かな想いに感動したことを今でも覚えています。人を想う優しさ、何とかしたいと想う心が、職員一人一人の身体から溢れ出ていました。またそれは、団体が持つ揺るぎない理念と深く結びついているのだと気付かされました。

日本は超高齢化社会へと突入り、様々な未知の課題に直面しています。この変化の中で、私たちの理念と変わらぬ想いが、より一層重要になってきています。活き生きネットワークは、制度が整っていない時代から、地域の困りごとに独自の方法で応えてきました。その精神は今も変わらず、私たちの活動の根底に流れています。

この記念誌を通じて、関わってくださった皆様の経験と想いを知ることができ、心から感謝を申し上げます。私たちは歴史を大切にしながら、皆さまと共に新しい時代の課題に勇気を持ち挑戦し、未来への新たな一歩を踏み出して参ります。



浜名湖花博2024

LAKE HAMANA HANAHAKU2024

テクノロジーと花と緑が創り出す、いつもと違う感動の86日間

令和6年(2024年) **3月23日(土)～6月16日(日)**

はままつ **フラワーパーク** 会場

いつもと違う感動がいっぱい!

昼も夜も楽しもう!
浜名湖花博期間だけの特別演出

巨大キャラクターが噴水から次々飛び出す
音楽と光と映像の世界
**ビッグウォーターファンタジア
“花の仲間たち”**

音楽によって巨大なミツバチやカメ、
キャラクターなどが次々と噴水上に
飛び出し、迫力満点!誰も見たこと
のない、日本最大級の噴水ショーに乞
うご期待! ※夜間演出の開催日は
HPでご確認ください。

国内最大級!
ウォーター
スクリーン
大噴水ショー

花みどりに
つまれる
絶景体験

360度映像を体感する特設シアター “花みどり映像館”

まるでフラワーパークの妖精になったよ
うな気分、圧倒的に美しい花みどりにつ
つまれる感覚を360度映像で体験!また、リ
アルな360度画像操作ができるVRゴーグル
との比較体験もどうぞ。 ※「花みどり館」
2階特設シアターで期間中常時開催。

ウェルカムガーデン

わくわくするような、おもてな
し感とインパクトある吉谷桂
子氏デザインの花スポットで
お出迎え。



魅力あふれる 新ガーデン

花博にふさわしい、**人気ガーデン
デザイナー**による3つのガーデン
誕生により、花みどりの魅力がさら
に広がります。「映えスポット」とし
て話題になること間違いなし!

はなのほら

やさしく花々が風にそよぐ野
原のような、**小倉珠子氏**監
修による生物多様性サス
ティナブルガーデン。

フラワーフォレスト

足下から頭上まですっぴりと
自然の美につつまれる、
吉谷桂子氏が手掛ける新
感覚の没入体験型の庭。

花博スペシャルイベント開催

期間中、著名人のトークショーの他、地元
企業や市民参加の多種多様なイベント
が、園内各所で繰り広げられます。いつも
と違う体験をどうぞお楽しみください。



アクセス

- 東名「館山寺スマートインター」より車で約5分
- 東名「浜松西インター」より車で約15分

開園時間 9:00～17:00 (イベント時は夜間開園もあり)

〒431-1209 浜松市中央区館山寺町 195
はままつ **フラワーパーク** TEL.053-487-0511
https://e-flowerpark.com



未来のために、私たちができること
静岡市SDGs宣言企業

株式会社スギセキ

カクサ美和給油所車検センター

〒421-2115 静岡市葵区与左衛門新田 69-1
TEL:054-296-0081 FAX:054-296-1119

新静岡駅 鷹匠口徒歩1分



CERISE

美容室シリーズ

縮毛矯正・カラー(ヘナ・ハーブ等)が得意です

静岡市葵区鷹匠1丁目2-15
TEL 054-251-0102 <予約優先>

心のやすらぎを
もたらすために

Bringing peace of mind



法月株式会社

〒420-0875 静岡市葵区美川町21番10号
TEL 054-271-2787 <受付時間/平日 8:30～17:00>

貸切バス・観光バスはお気軽にご相談ください!

Seishin Kanko



安全で楽しい旅のパートナー **セイジン観光バス株式会社** 静岡市葵区瀬名4丁目7-77 TEL:054-263-0303



有限会社 風間自動車

〒420-0821 静岡市葵区柚木194の1(護国神社東門前)
TEL 054-261-4311 FAX 054-208-0088

https://carpaint-kazama.wixsite.com/kazama

発足40周年・NPO法人設立25周年
誠におめでとうございます。
益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



株式会社 吉見書店

Since 1879

https://www.yoshimi-books.com




明治末期頃

社会保険労務士は「人」に関する専門家です。
人事労務の相談役として職場づくりをサポートし、
企業の成長と発展に貢献していきます。

社会保険労務士 戸田純子事務所

〒422-8077 静岡市駿河区大和1丁目7-12-108
TEL 054-266-7537 FAX 054-266-7538

就業規則の作成および改定 人事労務・賃金コンサルティング
社会保険・労働保険の手続代行 給与計算業務のアウトソーシング

クルマが好き、クルマ好きな人が好き

ハイブリッドカーから大型4WD車まで
あなたのライフスタイルに合ったクルマ探しをサポートします。



株式会社 福岡自動車

〒422-8051 静岡市駿河区中野新田380-1
TEL.054-286-0165(代) FAX.054-286-2725
www.fukuoka-jidousha.com



静岡大橋 安倍川 インター通り ●ゆで太郎 大浜街道 石田街道
●エネオス ●ファミリーマート 静岡I.C. 東名高速道路

茶問屋
(有)杉山剛士商店

静岡市駿河区中田2-8-23 TEL.054-285-4934
お近くのスーパーでお買い求めください



中小企業と起業家を
応援しています!

小出宗昭事務所

〒422-8067 静岡市駿河区南町5-26-306
☎054-291-5580 ✉toiawase@office-koide.jp



静岡市清水区草薙1865-2 電話:054-349-2626



せきうち牧場 Instagram チェックしてね

特別な体験を富士山の麓でしませんか!
酪農体験 己書辛座 ドローン研修(体験)

〒418-0102 富士宮市人穴793 後Graceland TEL.0544-52-0604
障がい者と健常者と皆が輝ける牧場(ケアファーム)を目指しています。



事業者様(低圧受電施設)向け

設置費用
メンテナンス費

0円

太陽光発電システム 無償設置サービス

- 高騰する電気代を安くしたい
- 環境経営について何をすればよいのかわからない
- 防災対策をしたい

☎0120-224-215 平日9:00~17:00 (土・日・祝日 休業)

鈴与商事株式会社
くらサポート販売部
〒420-0859 静岡県静岡市葵区栄町1-3 鈴与静岡ビル6F



木の温もりを感じる、
野菜ソムリエのいる老舗カフェ

PARICA SINCE 1976

静岡市葵区安西5丁目85
TEL:054-273-2664

営業時間 9:00~17:00
月曜・第3日曜定休



安心と満足をお届けいたします

アオイケア静岡

介護のことならなんでもご相談ください!
経験豊富な有資格者の専門スタッフが
親身にご対応させていただきます。

静岡市葵区安東3-12-16 TEL:054-246-7207
mail: info@aoiinc.jp



幅広い世代に向けた静岡市の自転車店

Cycle Utopia

UMINO

サイクルユートピアうみの

本店・ピット店 / TEL.054-247-1366
〒420-0881 静岡市葵区城北 21-1

駅南店 / TEL.054-280-5565
〒422-8033 静岡市駿河区登呂 6丁目3-1

アウトレット店 / TEL.054-276-0933
〒421-1212 静岡市葵区千代 2丁目15-12

営業時間 10:00~19:00 / 水曜定休
(アウトレット店: 営業時間 9:00~18:00 / 火・水曜定休)



中華料理 康華飯店

ランチのみ営業
11:00~14:00
(月曜・火曜定休)

— 昔ながらの懐かしい味と優しい雰囲気の中中華屋です —

静岡市葵区新富町3-30 TEL:054-253-1998 *駐車場あり



人とのつながりを大切に 確かな信頼関係を結ぶ

リニューアルしました!
<https://www.iae.co.jp>
アイエー 検索

静岡県の人材派遣・人材紹介なら、
株式会社 アイエー

株式会社 アイエー

労働者派遣事業(派22-300612)
有料職業紹介事業(22-ユ-300451)

【静岡本社】 静岡県静岡市葵区御幸町11-30 エクセルワード静岡ビル13F
【静岡支店】 静岡県静岡市葵区長沼2丁目4-8
【藤枝支店】 静岡県藤枝市田沼2丁目2-22 エンブルステーション藤枝2F
【富士支店】 静岡県富士市今泉1丁目8-23 Sharemo 1F
【掛川オフィス】 静岡県掛川市中央1丁目17-2 スクエアビル4F
【東京オフィス】 東京都港区南青山2-2-15

TEL:054-221-0004 FAX:054-221-0048
TEL:054-298-9005 FAX:054-298-9013
TEL:054-639-6669 FAX:054-639-6694
TEL:0545-32-8822 FAX:0545-32-8823
TEL:0537-64-5666 FAX:0537-64-7744
TEL:03-6555-5344



社会福祉法人小羊学園 重症心身障害児・者施設

つばさ静岡

「あかるく・たのしく・すこやかな」暮らしを共にすることを目指しています。

看護師さん
生活支援員さん
募集中です!

〒420-0805
静岡市葵区城北117
TEL:054-249-2830
https://www.tsubasa-szok.net



安東の魅力を探しに行こう

安東おさんぽマルシェ

次回 IN 城北公園

5.19 SUN 開催!

主催・事務局 はっぴいプレイス 安東おさんぽMAP
静岡市葵区大岩12-35 TEL.054-209-0123 https://www.happyplace3.com/



「太陽」のように輝く「人生」をいつまでも

25th anniversary

since 1999 有限会社生陽会 Ikiyokai Co.,Ltd.
静岡県駿河区大谷・小鹿・丸子 介護付有料老人ホーム / 認知症対応型グループホーム / デイサービス / 居宅介護支援事業所

0120-77-4165



「隣人愛」

心をつくし、思いをつくし、自分を愛するようにまわりの人を愛します。

社会福祉法人 袋桂

<p>特別養護老人ホーム</p> <p>カリタス21</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デイサービス/ショートステイ(休止中) ● ホームヘルプサービス ● 居宅介護支援事業所 <p>静岡市葵区桂山723-6 TEL (054)292-2882</p>	<p>ケアハウス</p> <p>カリタスみわ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デイサービス ● 特定施設入居者生活介護 <p>静岡市葵区内牧479-1 TEL (054)206-0333</p>	<p>在宅サービス</p> <p>カリタス有東</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デイサービス ● 認知症対応型デイサービス <p>静岡市駿河区有東2-9-22 TEL (054)281-6960</p>	<p>生活福祉</p> <p>静岡市梅ヶ島 高齢者生活福祉センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デイサービス ● 生活支援型居室事業 <p>静岡市葵区入島246 TEL (054)207-4477</p>
--	---	---	---

真の健康をめざして

株式会社ケアパディー

デイサービス か・な・で

かぞくと同じ気持ちで
ななま意識を大切に
このであいに感謝します

静岡市葵区千代田7丁目4-12-1 ☎054-208-3130

～24時間365日 利用者様のために～

福祉用具レンタル・販売・住宅改修

合同会社 介護ショップゆう

静岡市葵区千代1丁目11-19
TEL 054-295-9021

お気軽にご連絡ください!!



突撃キッチン

produced by TSUNUGA

手造りお弁当を配達します

静岡高校のすぐそば、お昼のお弁当探しは突撃キッチンで!

給食・お弁当・惣菜 静岡市葵区長谷町28-2 TEL 054-209-3233



日本中に“楽しい対話”の文化を!

= 全員発言する「日本型ファシリテーション」の創始者 =

研修・講演は1000回以上の実績!!

代表 釘山健一
副代表 小野寺郷子

2人で行うボケと突っ込みの漫才研修。日本一楽しい研修と大好評!

2人の著書は多数

↑↑ Amazonで検索するとできます(^)/ ↑↑

- 「日本型ファシリテーション」は自分から発言しない日本人に向けている「発言力の弱い人」に対して、世界一人に優しい会議のスキルです。
- 「日本型ファシリテーション(MFA)」は、MFAの商標登録の言葉です。

一般社団法人 会議ファシリテーター普及協会(MFA)



ペリデグループがプロデュースするシニア専用フィットネス

半日型 デイサービス Viva Training ペリデ駒形

静岡市葵区駒形通5丁目6-19 SOZOSYA駒形1F TEL:054-260-5882



レクリエーションの良さを活かした

居場所づくり研究所

介護予防等に関する、レクリエーションゲーム・手遊び・歌に合わせた体操・タオル体操・ボール体操・棒体操等のお手伝いをさせていただきます。

ご連絡は 田井中(タイナカ)まで 090-3830-3144



「旅路を共に」

社会福祉法人 花園会

<p>障害者支援施設 百花園</p> <p>〒424-0401 静岡市清水区中河内2780 Tel. 054-395-2621</p>	<p>障害者支援施設 百花園 宮前ロッヂ</p> <p>〒424-0881 静岡市清水区楠150番1 Tel. 054-344-3555</p>	<p>児童発達支援センター もも</p> <p>〒422-8033 静岡市駿河区登呂3丁目2番1号 Tel.054-283-2850</p>	<p>特別養護老人ホーム レジデンス花</p> <p>〒424-0401 静岡市清水区中河内2717 Tel. 054-343-2121</p>
---	--	--	--

薄板鋼材 加工販売
冷延・酸洗・表面処理・カラー鋼板



野原商行株式会社
藤枝市横内888-1 TEL 054-643-0781



生命保険見直しから
住宅購入、相続まで
幅広く対応いたします



株式会社アセットコンサルティング
静岡市葵区御幸町6番地 静岡セントラルビル6階

054-269-5557
営業時間/9:00~17:00



— 旅が人生を豊かにする —

T-LIFEパートナーズ(株)静岡支店
静岡市駿河区泉町1-12 ウェストコースト泉町3階
TEL:054-654-1250 FAX:054-654-1251



いつもの安心を、ずっと。
アサヒサンクリーン

この度はおめでとうございます。
当社も引き続き地域に貢献できるように努めて参ります。
訪問入浴は是非アサヒサンクリーンへ！！



アサヒサンクリーン株式会社 静岡支店
所在地：静岡市葵区新通2丁目2番18号 TEL：054-266-3010

— ご協賛ありがとうございました — (順不同)

考えよう 相手の気持ち
育てよう 思いやりの心

静岡県人権・地域改善推進会
静岡市葵区東草深町20-26 TEL:054-260-5246




NPO法人 ぼくんち

移動支援
ヘルパーと色々な場所に出かけます。


居宅介護
ご家庭の生活サポートします。

日中サービス支援型共同生活援助
仲間たちの住まいです。



静岡市駿河区曲金4-12-5-1 TEL 054-654-0477

発足40周年 おめでとうございます




NPO法人 **WAC清水さわやかサービス**
困った時はお互いさま

さわやか清水	さわやかサポート
<ul style="list-style-type: none"> 自立支援デイサービス 若年性認知症デイサービス 居宅介護支援 	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援・配食・子育て支援

みんなの居場所「わくわく亭」

静岡市清水区日立町24-17
TEL 054-336-8844 / FAX 054-336-8864
mail wacshimizu@sepia.ocn.ne.jp




福祉用具に対する高い専門知識を持ったスタッフが、
お身体の状態や住環境を考慮した上で丁寧にご提案します。

まずは、お気軽にご相談ください！

株式会社ヤマシタ 静岡営業所
静岡市駿河区登呂5丁目6-17
TEL：054-202-1300





新鮮で採りたての野菜・果物や、手作りのお弁当・加工品を販売しています。



JA静岡市女性部販売所
アグリロード美和
静岡市葵区安倍口新田537-1
TEL 054-296-7878
営業時間/9:00~15:00




— ご協賛ありがとうございました — (順不同)

株式会社 やすらぎ住宅 静北

- 一般木造住宅・各種アパート・工場・倉庫 設計施工
- 各種店舗・住宅リフォーム
- マンション・アパート補修工事
- 建売住宅 ■ 土地分譲



静岡市駿河区登呂1丁目17-14
TEL:054-283-0678 FAX:054-283-0689



FA
Financial Alliance

確かな専門知識を持つコンサルタントにより、ご満足いただける解決策をご提案致します。


ファイナンシャルアライアンス株式会社
静岡清水支店 静岡市清水区大手1-3-3
TEL:054-368-5481 FAX:054-368-5482



学校に行かなくても大丈夫
そのまんなまのきみを受けとめます

きみのスペース まんなまは、
不登校やひきこもりの若者の居場所です。

静岡市葵区銭座町98の4(2F)
TEL:090-8824-9614
info@kiminospacemanma.org



YOTSUBA 株式会社四葉商会

時代の一步先へ 四葉商会は生活文化創造企業

- YOTSUBAクオリティセレクト
- パーソナル ステーションナリー
- オフィス サプライ
- デザイン ツール

〈清水店〉 静岡市清水区銀座14-13 054-365-2151
〈静岡店〉 静岡市葵区伝馬町2-3 054-251-1048

一般社団法人NewEndeavors

スポーツとまなびのひろば 静岡校

放課後等デイサービス事業所になります。
脳機能にアプローチするプログラムを充実させ、
脳の働きを向上させることにより、
日常生活や学習、体の使い方、人とのコミュニケーション等
一人一人の個性に合わせて療育しています。

静岡市駿河区宮竹2丁目18番2号 南ハイツ1F
TEL:054-266-5601

株式会社 イトー商店

弊社は産業廃棄物収集運搬業を中心として、
業務用冷凍冷蔵庫など、厨房機器の設置・移設・廃棄や
温室ボイラーの点検・清掃を業務とし、
エコロジーを念頭に社員一同、
クリーンと丁寧な仕事をモットーにしております。

〒420-0961 静岡市葵区北四丁目3-24
TEL:054-248-8358 FAX:054-248-8370



TAGATA
新鮮野菜のエネルギー

いきいき元気

田形青果株式会社

〒421-0125 静岡市駿河区用宗小石町2-33
TEL:054-257-8311 FAX:054-257-8083

社会福祉法人 清承会

特別養護老人ホーム 白扇閣

入居の相談は
お気軽にお電話ください!!

静岡市清水区承元寺町1341
TEL 054-369-2258

税理士法人しずおか

貴社を毎月訪問し、自計化システムの活用と
経営改善計画策定により黒字、決算を支援します。

- 創業・独立の支援
- 税務・会計・決算に関する業務
- 税務申告書への書面添付
- 自計化システムの導入支援
- 経営計画の策定支援
- 資産譲渡・贈与・相続の事前対策
- 事業承継対策
- 経営相談等

静岡市葵区追手町1-13 アゴラ静岡6F
TEL:054-221-7405

誰もが安心して暮らせる社会を目指して

みんなにやさしい社会づくり・
社会をつくる人づくりに取り組んでいます

特定非営利活動法人
静岡県ボランティア協会
https://www.shizuvol.jp

中島屋ホテルズ

心をこめる中島屋

中島屋グランドホテル 焼津グランドホテル ガーデンホテル 静岡
Gardens 焼津四川飯店 & ガーデنز NGardens 藤枝四川飯店 & ガーデنز

KOKUSAI KOTOKU GAKUIN

学校法人 国際ことば学院

韓国語・中国語を
学んで海外の大学へ!!

3年次編入して最短2年で学士取得!

- 外国語学科
- [第一言語] 韓国語/中国語
- [第二言語] 韓国語/中国語/英語

国際ことば学院外国語専門学校
KOKUSAI KOTOKU GAKUIN COLLEGE OF FOREIGN LANGUAGES

電話 054-270-7091
E-mail ask@kotoba.ac.jp
住所 静岡市駿河区福川3-9-4

静岡・長谷通り — 歴史文化の薫るこの街に
「せいしん」の新しい風を感じて —

Renewal Open

せいしん 令和6年 3月4日開
安東支店 横内支店 リニューアルオープン

これからも、皆さま方に
愛される店舗づくりを
心掛けてまいりますので、
一層のご愛顧を
賜りますよう
お願い申し上げます。

せいしん 静岡信用金庫
安東支店・横内支店
TEL.054-245-9161

Paddington
maison de beauté

静岡市駿河区馬淵四丁目10-6-2F 054-260-4422

ガンバリー
GUNBALEE 静岡
株式会社

★カーペット・ソファのクリーニング
★エアコンクリーニング ★ハウスクリーニング

…ハウスマンテナンスで暮らしいきいき…

〒421-1215 静岡市葵区羽鳥6丁目3-22
TEL: 054-278-5815 FAX: 054-277-1561



NPO法人 清水障害者サポートセンターそら

障がい児・者及び介護を必要とする方々が、住み慣れたまちで自分らしく暮らしていけるよう支援をさせていただきます。

障害福祉サービス

- 清水障害者サポートセンターそら(静岡市委託障がい者相談支援事業他)
- 介護サービスそら(居宅介護、重度訪問介護、同行支援・移動支援他)
- 生活介護そら(生活介護)
- 放課後等デイサービスどれみ(放課後等デイサービス)

介護保険サービス

- ホットハート介護サービス(訪問介護事業)
- ホットハート居宅介護支援(ケアマネージャー)
- 生活介護空(生活介護)

会員制介助派遣サービス、福祉有償運送事業

- 身体介護・家事支援(高齢者、障害児・者)
- 福祉有償運送(市が有償運送対象者と認められた方)

法人本部
静岡市清水区庵原町219-18
TEL.054-366-8000(代表)





福祉車両の代車が豊富で安心!!

「オー・ルーージュに! ぜひお問合せください!

販売買取

車検整備

メンテナンス

钣金塗装

自動車保険

レッカー対応サービス代車

TOTAL SUPPORT
トータルサポート




EAU ROUGE 株式会社 オー・ルーージュ
TEL.054-256-0510

〒421-0103 静岡市駿河区丸子3-12-98 [営業時間]9:00~18:30 [定休日]年中無休

今回、活き生きネットワークの誕生から今日に至る40年を読みもの風にもとめてみました。紐解いた数多くの資料や記録には、活き生きという組織が情熱あるリーダーのもとで結束し、改革を厭わずに成長を続けた姿がありました。

私も40年近いライター業務でさまざまな企業活動取材してきましたが、うまくいっている組織は、遠い未来というよりも、ちょっと先の時代の空気を読み取る感性に優れていると実感しています。活き生きはまさにその典型で、利用者さんの声につねに敏感で真摯に耳を傾けるからこそ近未来を想像し、実践できるのでしょう。ちょっと先、ではなく、この先もずっと大事に存在し続けて欲しい組織…心からそう思います。

認定NPO法人活き生きネットワーク理事
コピーライター
鈴木 真弓



30周年の記念誌をお手伝いした時「10年後のことは分からない」とおっしゃっていた杉本代表がパワーアップして40周年を迎え、また記念誌に携わらせていただくことになるとは悪夢、いや夢のように素晴らしく光栄なことです。

そのパワーアップたるや想像を絶する規模であり、発足当時から変わらない杉本代表の強い思いはとどまることを知らず、常にアップデートされ、若い世代に受け継がれ、日本の福祉介護の歴史において末代まで語られるであろう…と、編集の中で確信いたしました!

こうなったら最後、私たちの命が尽きるその日まで、しかと見届けさせていただきます! 本誌をお手に取ったアナタも、これは運命だと諦めてこの潮流に身を任せてくださいませ。

認定NPO法人活き生きネットワーク評議員
オフィス トイボックス代表
高島 利充 / 櫻井 美佳

記念誌編集委員に参加させていただき、ご利用者さん、代表・専務をはじめ様々な現場のスタッフ、外部の理事さんや関わりのある方々のメッセージや、「杉本彰子と活き生きネットワーク40年ものがたり」に心打たれました。こんなにも素晴らしい方々の声が集まることにも、活き生きのネットワーク力、改めてすごいなと、感激でいっぱいです。

職員としてお世話になった6年余り、大きすぎるご恩に感謝しきれません。転職後も12年が過ぎ、社会の状況や制度も大きく変化していますが、常に困りごとに寄り添い、進んでいる活き生きネットワーク。本当に頼もしいです。新施設がオープンし、これから益々つながりを広げ、地域の拠り所として発展されることと思います。ずっと近くにいたいです。


認定NPO法人活き生きネットワーク理事
株式会社吉見書店
吉見 佳奈子

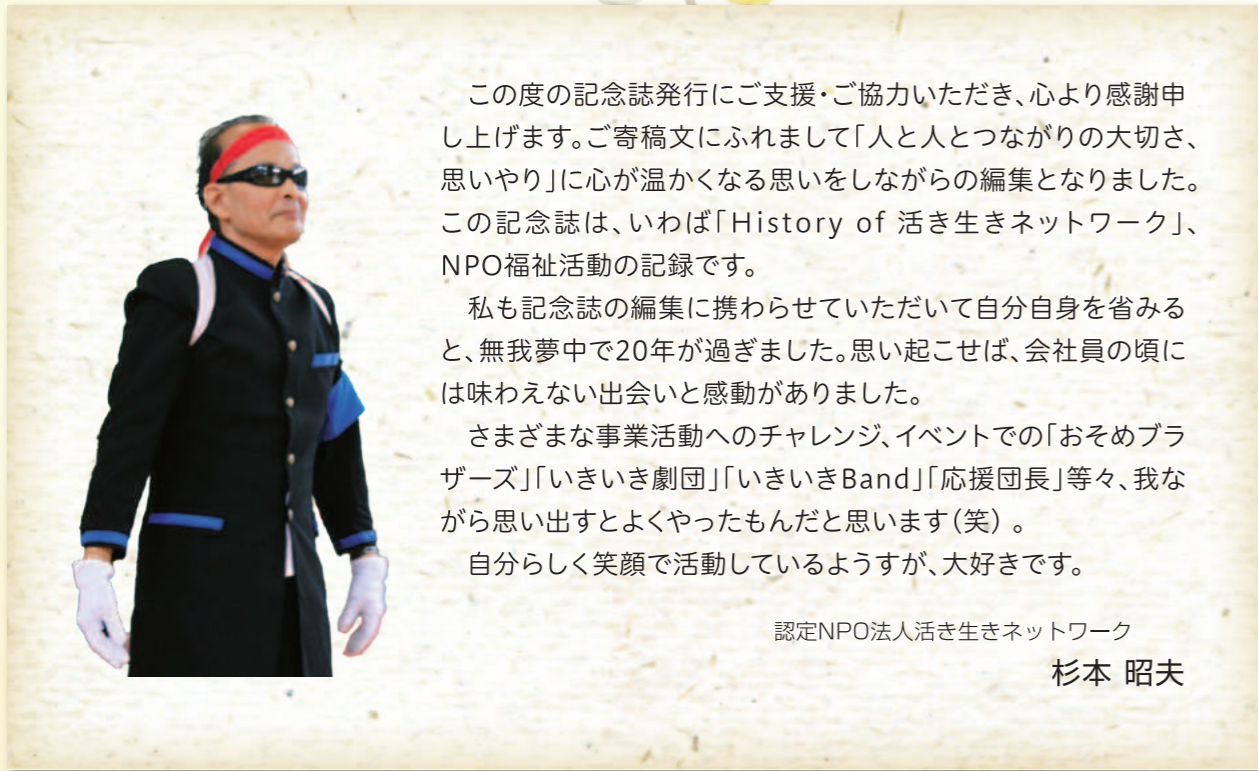
編集委員に参加させていただき、こんなにも多くの方々と出会える仕事は他にないのではないかと感じ、感謝の思いに溢れています。20年余り様々な部署を経験してきましたが、利用者さんや同僚の皆さんに支えてもらいながらの日々でした。自分自身活き生きと働く居場所でもあります。この経験は自分の人生の宝物です。

私は家庭の事情で幼少期から沢山の方に支えられて育ってきました。そのことは大人になる過程において貴重な経験でした。

発足40年・NPO認証25周年を機に、ご支援いただいている全ての方々、また、活き生きネットワークをご存じない方々とも、お互いを思い支え合う相互扶助の関係を広げていきたいと思えます。

認定NPO法人活き生きネットワーク
居宅介護支援専門員
畠山 桃子





この度の記念誌発行にご支援・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。ご寄稿文にふれまして「人と人とのつながりの大切さ、思いやり」に心が温くなる思いをしながらの編集となりました。この記念誌は、いわば「History of 生き生きネットワーク」、NPO福祉活動の記録です。


私も記念誌の編集に携わらせていただいて自分自身を省みると、無我夢中で20年が過ぎました。思い起こせば、会社員の頃には味わえない出会いと感動がありました。

さまざまな事業活動へのチャレンジ、イベントでの「おそめブラザーズ」「いきいき劇団」「いきいきBand」「応援団長」等々、我ながら思い出すとよくやったもんだと思います(笑)。

自分らしく笑顔で活動しているようですが、大好きです。

認定NPO法人生き生きネットワーク

杉本 昭夫



本記念誌発行にあたり
ご寄稿くださった皆さま、
ご協賛くださった皆さま、
ご協力くださった皆さまに
心より感謝申し上げます。
ありがとうございました。

認定NPO法人生き生きネットワーク
スタッフ一同

認定NPO法人生き生きネットワーク
発足40周年 NPO法人認証25周年 記念誌

2024年(令和6年) 2月25日発行

編集責任者 杉本 彰子

発行 認定NPO法人生き生きネットワーク
〒420-0882 静岡市葵区安東1丁目23-12
TEL: 054-209-0700(代表) FAX: 054-209-5700
URL <https://npo-ikiiki.net>
E-mail npo_ikiiki@pure.ocn.ne.jp